

# ライセンス管理

IM 33J01C20-01JA



# はじめに

本書では、CENTUM VP と ProSafe-RS のソフトウェアパッケージを有効化／無効化するために必要な作業であるライセンス管理について説明します。

CENTUM VP と ProSafe-RS ソフトウェアパッケージのインストールや事前の設定が終了していることを前提として説明しています。


本書は、次のように構成されています。


- ・ ライセンス管理概要  
ライセンス管理の概要について説明します。
- ・ ライセンスプロジェクトに対する基本操作  
ライセンスを管理するときの基本的な手順について説明します。
- ・ ライセンスプロジェクトのメンテナンス  
ライセンスプロジェクトをメンテナンスするときの手順について説明します。
- ・ CENTUM VP R5 から R6、ProSafe-RS R3 から R4 へのライセンスの更新  
製品をバージョンアップしたときのライセンスの更新手順について説明します。
- ・ アップグレードライセンスを操作する  
アップグレードライセンスの操作手順について説明します。

# 安全に使用するための注意事項

## ■ 本製品の保護、安全および改造に関する注意

- ・ 本製品によって制御されるシステムおよび本製品自体を保護し、安全に操作するために、本書に記載されている安全に使用するための注意事項に従ってください。指示事項に反する扱いをされた場合、横河電機株式会社（以下、当社といいます）は安全性の保証をいたしかねます。
- ・ ユーザーズマニュアルで指定していない方法で製品を使用した場合は、本製品で提供される保護機能が損なわれる可能性があります。
- ・ 本製品によって制御されるシステムおよび本製品そのものに保護または安全回路が必要な場合は、本製品外部に別途で用意ください。
- ・ 本製品と組み合わせて使用する機器の仕様と設定については、必ず、機器の取扱説明書などで確認してください。
- ・ 本製品の部品または消耗品を交換する場合は、当社が指定する部品のみを使用してください。
- ・ 本製品および本製品の電源コードセットなどの付属品を、当社が指定する機器や用途以外に使用しないでください。
- ・ 本製品を改造することは、固くお断りいたします。
- ・ 本製品およびユーザーズマニュアルでは、安全に関する次の記号を使用しています。

 「注意」を示します。本製品においては、感電など、人体への危険や機器損傷の恐れがあることを示すとともに、ユーザーズマニュアルを参照する必要があることを示します。また、ユーザーズマニュアルにおいては、人体への危険や機器損傷を避けるための注意事項が記載されている箇所に、本記号を「注意」「警告」の用語と一緒に使用しています。

 「注意、高温表面」を示します。このマークの付いた機器は熱くなりますのでご注意ください。接触するとやけどなどの危険があります。

⊕ 「保護導体端子」を示します。感電防止のため、本製品を使用する前に、保護導体端子を必ず接地してください。

⊥ 「機能接地端子」を示します。「FG」と表示された端子も同じ機能を備えています。保護接地以外を目的とした接地端子です。本製品を使用する前に、機能接地端子を必ず接地してください。

～ 「AC 電源」を示します。

≡ 「DC 電源」を示します。

I 「オン」を示します。電源スイッチなどの状態を示します。

O 「オフ」を示します。電源スイッチなどの状態を示します。

## ■ ユーザーズマニュアルに対する注意

- ・ ユーザーズマニュアルは、最終ユーザまでお届けいただき、最終ユーザがお手元に保管して随時参照できるようにしてください。
- ・ ユーザーズマニュアルをよく読んで、内容を理解したのちに本製品を操作してください。

- ・ ユーザーズマニュアルは、本製品に含まれる機能詳細を説明するものであり、お客様の特定目的に適合することを保証するものではありません。
- ・ ユーザーズマニュアルの内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- ・ ユーザーズマニュアルの内容について万全を期していますが、もしご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、当社またはお買い求め先代理店までご連絡ください。乱丁、落丁はお取り替えいたします。

## ■ 本製品の免責について

- ・ 当社は、保証条項に定める場合を除き、本製品に関していかなる保証も行いません。
- ・ 本製品のご使用または使用不能から生じる間接損害については、当社は一切責任を負いかねますのでご了承ください。

## ■ ソフトウェア製品について

- ・ 当社は、保証条項に定める場合を除き、本ソフトウェアに関していかなる保証も行いません。
- ・ 本製品の各ソフトウェアに対するライセンスは、ご使用になるコンピュータの台数に応じて適正にご購入ください。
- ・ バックアップ以外の目的で本ソフトウェアを複製することは、当社の知的所有権を侵害する行為であり、固くお断りいたします。
- ・ 本ソフトウェアが収められているソフトウェアメディアは、大切に保管してください。
- ・ 本ソフトウェアをリバースコンパイル、リバースアセンブリ、リバースエンジニアリング、その他の方法により人間が読み取り可能な形にすることは、固くお断りします。
- ・ 当社から事前の書面による承認を得ることなく、本ソフトウェアの全部または一部を譲渡、交換、転貸などによって第三者に使用させることは、固くお断りいたします。

# ユーザズマニュアル中の凡例

## ■ ユーザズマニュアル中のシンボルマーク

ユーザズマニュアルの本文中では、次の各種記号が使用されています。



死亡または重傷を招く可能性がある危険な状況避けるための注意事項を記載しています。



軽傷または物的損害を招く可能性がある危険な状況避けるための注意事項を記載しています。



操作や機能を知る上で、注意すべき事柄を記載しています。



説明を補足するための事柄を記載しています。



参照先を示します。

オンラインマニュアルでは、緑色の参照先をクリックすると、該当箇所が表示されます。黒色の参照先は、該当箇所が表示されません。

## ■ ユーザズマニュアル中の表記

ユーザズマニュアル中の表記は、次の内容を示します。

### ● ユーザズマニュアル全体を通して共通に使用されている表記

- ・ 入力文字列

次の書体の文字列は、ユーザが実際の操作において入力する内容を示します。

例：

`FIC100.SV=50.0`

- ・ ▼記号

本製品のエンジニアリングを行うウィンドウの定義項目に関する説明箇所であることを示します。

本製品のエンジニアリングを行うウィンドウのヘルプメニューから「ビルダ定義項目一覧」を選択したときに開くウィンドウを経由して、選択した項目の説明を表示できます。なお、複数の定義項目が併記されている場合には、複数の定義項目に関する説明箇所であることを示します。

例：

▼タグ名、ステーション名

- ・ Δ 記号

ユーザが入力する文字列で、空白文字（スペース）を示します。

例：

`.ALΔPIC010Δ-SC`

- ・ {} で囲った文字

ユーザが入力する文字列で、省略可能な文字列を示します。

例：

`.PRΔTAG{Δ.シート名}`

## ● キーまたはボタン操作を示すために使用されている表記

- ・ [ ] で囲った文字  
キーまたはボタンの操作説明において [ ] で囲まれている文字は、キーボードのキー、オペレーションキーボードのキー、ウィンドウに表示されるボタン名、またはウィンドウに表示されるリストボックスの選択項目のいずれかを示します。

例：

機能を切り替えるには、[ESC] キーを押します。

## ● コマンド文やプログラム文などの書式説明の中で使用されている表記

コマンド文やプログラム文などの書式説明の中で使用されている表記は、次の内容を示します。

- ・ < > で囲った文字  
ユーザが一定の規則に沿って任意に指定できる文字列を示します。

例：

```
#define <識別子> <文字列>
```

- ・ …記号  
直前のコマンドや引数が繰り返し可能であることを示します。

例：

```
lmax (arg1, arg2, …)
```

- ・ [ ] で囲った文字  
省略可能な文字列を示します。

例：

```
sysalarm <フォーマット文字列> [, <出力値> …]
```

- ・ | | で囲った文字  
ユーザが複数候補から任意に選択できる文字列を示します。

例：

```
opeguide | <フォーマット文字列> [, <出力値> …] |
          | OG, <素子番号> |
```

## ■ 図の表記

ユーザーズマニュアルに記載されている図は、説明の都合上、部分的に強調、簡略化、または省略されていることがあります。

ウィンドウの図では、機能理解や操作監視に支障を与えない範囲で、実際の表示と部品の表示位置や、大文字小文字など文字の種類が異なっている場合があります。

## ■ 入力文字

Windows では半角カタカナを使用できますが、本製品のソフトウェアへ入力する文字列には、半角カタカナを使用しないでください。

# 著作権および商標

## ■ 著作権

ソフトウェアメディアなどで提供されるプログラムおよびオンラインマニュアルなどの著作権は、当社に帰属します。

本製品を利用する目的でオンラインマニュアルの必要箇所をプリンタに出力することは可能ですが、全体の複製、または転載は著作権法で禁止されています。

したがって、オンラインマニュアルを電子的または上記出力を除く書面で複製したり、第三者に譲渡、販売、頒布（紙媒体、電子媒体、ネットワーク経由の配布など一切の方法を含みます）することを禁止します。また、無断でビデオ機器その他に登録、録画することも禁止します。

## ■ 商標

- CENTUM、ProSafe、Vnet/IP、PRM、Exaopc、Exaplog、Exapilot、Exaquantum、Exasmoc、Exarqe、Multivariable Optimizing Control/Robust Quality Estimation、StoryVIEW および FieldMate Validator は、横河電機株式会社の登録商標または商標です。
- 本製品で使用されている会社名、団体名、商品名およびロゴ等は、横河電機株式会社、各社または各団体の登録商標または商標です。



# ライセンス管理

IM 33J01C20-01JA 8 版

## 目 次

1.	ライセンス管理概要.....	1-1
1.1	ライセンス管理.....	1-2
1.1.1	ライセンス管理の対象.....	1-4
1.1.2	ライセンス管理の仕組み.....	1-6
1.1.3	ライセンス管理の作業概要.....	1-10
1.2	ライセンスマネージャ.....	1-12
1.2.1	ライセンスマネージャの機能.....	1-13
1.2.2	ライセンスマネージャのユーザ権限.....	1-14
1.2.3	ライセンスマネージャの起動・終了方法と動作モード.....	1-15
1.2.4	ライセンスマネージャのウィンドウ構成.....	1-18
2.	ライセンスプロジェクトに対する基本操作.....	2-1
2.1	新規ライセンス管理のプロセス.....	2-2
2.2	ライセンスプロジェクトの作成と削除.....	2-4
2.3	ライセンスの読み込み.....	2-6
2.4	ライセンスを適用するステーションの定義.....	2-7
2.5	ライセンス適用ステーションへのライセンス割り付け.....	2-11
2.6	ライセンス割り付けの整合性チェック.....	2-13
2.7	ネットワーク経由でのライセンス配布と反映.....	2-14
2.8	外部記憶メディアを使用したライセンス配布と反映.....	2-17
2.9	ライセンス適用状況の監視.....	2-19
2.10	ライセンスプロジェクトの保存.....	2-20
2.11	コンピュータ切替型 UGS のライセンス管理.....	2-21
2.12	ネットワーク切替型冗長化 UGS のライセンス管理.....	2-23
3.	ライセンスプロジェクトのメンテナンス.....	3-1
3.1	ライセンス管理ステーションへの追加ライセンスの読み込み.....	3-2
3.2	ライセンスの変更.....	3-3
3.2.1	ライセンス割り付けの変更.....	3-5
3.2.2	変更されたライセンスの配布.....	3-7
3.2.3	変更されたライセンスの反映.....	3-9
3.2.4	外部記憶メディアを使用したライセンス返還.....	3-11
3.3	ライセンス適用ステーションの追加と削除.....	3-12
3.4	ライセンス適用ステーションへのライセンス再配布.....	3-14
3.4.1	ネットワーク経由でのマスタライセンスの配布と反映.....	3-15
3.4.2	外部記憶メディアを使用したマスタライセンスの配布と反映.....	3-16
3.5	ソフトウェアパッケージ容量の拡張.....	3-17
3.6	ライセンスプロジェクトのバックアップとリストア.....	3-19
3.7	ライセンスの別プロジェクトへの移動.....	3-21
3.8	ライセンス適用ステーションのコンピュータ名変更.....	3-24
3.9	ライセンス割り付け作業を補助する機能.....	3-25
3.9.1	パッケージリストのインポートとエクスポート.....	3-26
3.9.2	ライセンスプロジェクトウィンドウ上の文字の検索.....	3-30
3.9.3	ライセンスプロジェクトの折りたたみ表示.....	3-31

---

3.9.4	ライセンスプロジェクトウィンドウに表示される内容のフィルタリング...	3-32
3.9.5	ライセンスプロジェクトからソフトウェアパッケージのライセンスを削除する.....	3-33
3.9.6	ライセンス適用状況のファイル作成.....	3-34
4.	<b>CENTUM VP R5 から R6、ProSafe-RS R3 から R4 へのライセンスの更新.....</b>	<b>4-1</b>
4.1	ライセンスの更新のプロセス.....	4-2
4.2	一部の HIS に対してライセンスを更新する場合.....	4-5
5.	<b>アップグレードライセンスを操作する.....</b>	<b>5-1</b>

## ライセンス管理

IM 33J01C20-01JA 8 版

## 目 次

## 付録

Appendix 1. ライセンス割り付けの整合性チェックでチェックされる項目. .....	App.1-1
Appendix 2. ライセンス適用ステーションでのライセンス適用状況の表示. .....	App.2-1
Appendix 3. メッセージ.....	App.3-1
Appendix 4. CENTUM VP R5 ソフトウェアパッケージのライセンスの変更. .....	App.4-1



# 1. ライセンス管理概要

ここではライセンス管理の概要について説明します。

## 1.1 ライセンス管理

ここでは、ライセンス管理とライセンス管理用ソフトウェアであるライセンスマネージャについて説明します。

### ■ ライセンス管理とは

ライセンスとは、ソフトウェアパッケージ使用権のことです。

ソフトウェアパッケージを使用する場合、動作させたいソフトウェアパッケージのライセンスをコンピュータごとに付与すると使用可能になります。また、そのコンピュータで使用しなくなったソフトウェアパッケージのライセンスを削除できます。本書では、これらの作業をソフトウェアパッケージの有効化／無効化と呼びます。

ライセンス管理とは、どのコンピュータでどのソフトウェアパッケージを動作させるかを決定し、コンピュータごとにライセンスを配布／削除し、ソフトウェアパッケージを有効化／無効化することです。

ライセンスの種類を次に示します。

表 1.1-1 ライセンスの種類

種類	説明
ソフトウェアライセンス	製品ソフトウェアを使用するためのライセンス
バージョンアップライセンス	ソフトウェアライセンスをバージョンアップするためのライセンス
アップグレードライセンス	製品ソフトウェアが修正された場合に、その修正を適用するためのライセンス 次の種類があります ・ メンテナンス用アップグレードライセンス ・ レビジョンアップ用アップグレードライセンス ・ パッチ用アップグレードライセンス

### ■ ライセンスマネージャとは

ライセンスマネージャは、ライセンス管理作業を行うソフトウェアです。

ライセンスマネージャは、ライセンス管理の対象製品をコンピュータにインストールしたときに自動的にインストールされます。また、ライセンスマネージャだけをコンピュータにインストールすることもできます。

次に、ライセンスマネージャの画面を示します。

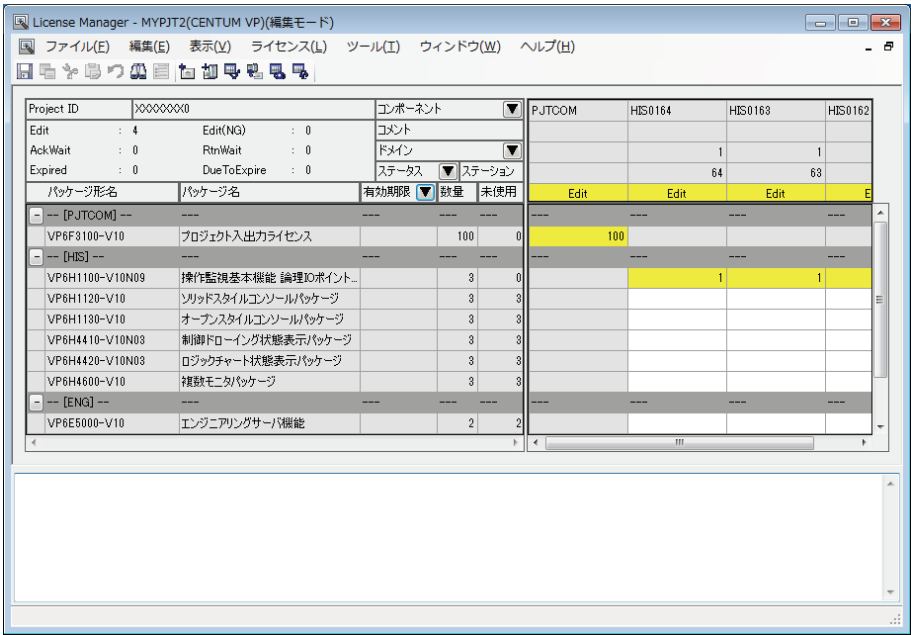


図 1.1-1 ライセンスマネージャ

**参照** ライセンス管理の対象製品については、以下を参照してください。

「■ ライセンス管理の対象製品」 ページ 1-4

## 1.1.1 ライセンス管理の対象

ここでは、ライセンス管理の対象となる製品と、ライセンスを管理する範囲について説明します。

### ■ ライセンス管理の対象製品

ライセンスマネージャは、次の製品のライセンスを管理します。

- CENTUM VP R5.01 以降
- ProSafe-RS R3.01 以降
- PRM R4.01 以降

#### 補足

ハードウェアに付属するソフトウェアはライセンス管理の対象外です。たとえば、コミュニケーションゲートウェイ（CGW）やバスコンバータ（BCV）に付属するソフトウェアは、管理されません。

#### 参照

PRM のライセンス管理については、以下を参照してください。

統合機器管理ライセンス管理（IM 30B05A40-01JA）

### ■ ProSafe-RS で使用する iDefine のライセンス管理

ProSafe-RS でエンジニアリングに使用する iDefine は、ライセンスマネージャの管理対象外です。

#### 参照

iDefine のライセンス管理については、以下を参照してください。

License User Guide（PR03076-MAN-971\_02）

### ■ ライセンスを管理する範囲

ライセンスを管理する対象を定義したものをライセンスプロジェクトと呼びます。ライセンスプロジェクトが管理する範囲は、プロジェクト ID により管理される範囲と一致します。

ProSafe-RS では、異なるライセンスプロジェクトに対応する SCS プロジェクトをひとつの RS プロジェクトに登録しないでください。

#### 補足

- CENTUM VP と ProSafe-RS は、別システムとして管理されます。そのため、ライセンスプロジェクトも CENTUM VP と ProSafe-RS では、別に管理されます。
- システムのエンジニアリング情報である CENTUM VP の「VP プロジェクト」、ProSafe-RS の「RS プロジェクト」「SCS プロジェクト」と、システムのライセンス情報である「ライセンスプロジェクト」は個別に管理されます。

### ■ 複数システムのライセンス

1 台のコンピュータのライセンスマネージャで、複数のプロジェクトのライセンスプロジェクトを管理できます。

また、1 台のコンピュータに、複数のライセンス管理対象製品のライセンスマネージャをインストールすると、複数のライセンス管理の対象製品を、それぞれのライセンスマネージャで管理できます。



## ■ 異なるバージョンのライセンス

ライセンスのバージョンと、ステーションにインストールされたソフトウェアのバージョンが同じ場合、ライセンスをステーションへ配布できます。

たとえば、CENTUM VP R6 のライセンスは、CENTUM VP R6 のソフトウェアをインストールしたステーションのみに配布でき、CENTUM VP R5 のソフトウェアをインストールしたステーションには配布できません。

また、CENTUM VP R5 のライセンスは、CENTUM VP R5 のソフトウェアをインストールしたステーションのみに配布でき、CENTUM VP R6 のソフトウェアをインストールしたステーションには配布できません。

## 1.1.2 ライセンス管理の仕組み

ここでは、ライセンス管理のシステム構成と、ライセンス管理のプロセスについて説明します。

### ■ ライセンス管理のシステム構成

ライセンスマネージャは、ライセンス管理の対象製品をインストールしたすべてのコンピュータにインストールされます。この中の1台のコンピュータにあるライセンスマネージャで、ライセンスプロジェクト全体のライセンスを管理して、その他のコンピュータのライセンスマネージャで、そのコンピュータ自体のライセンスを管理します。

ライセンスプロジェクト全体のライセンスを管理するコンピュータをライセンス管理ステーション、ライセンスを管理される側のコンピュータをライセンス適用ステーションと呼びます。

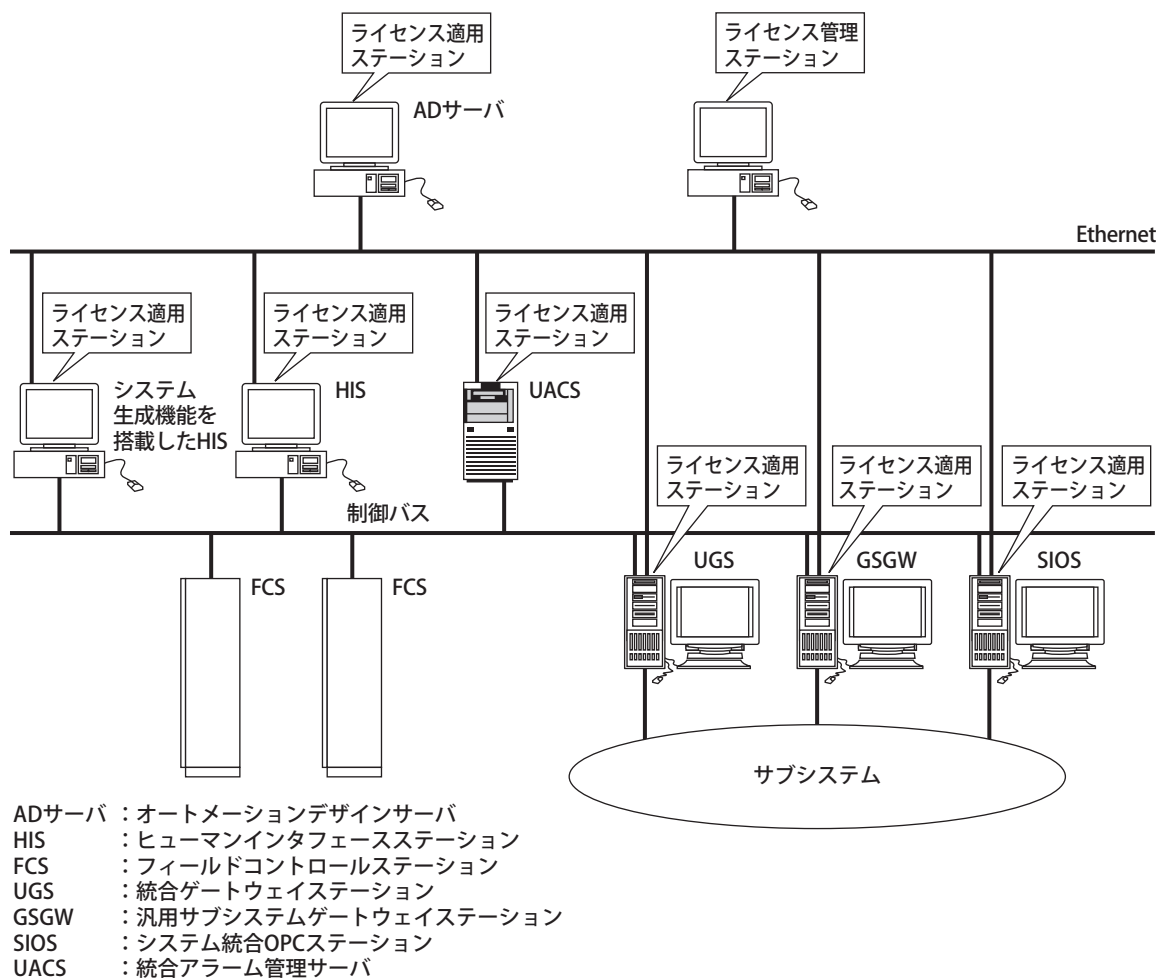


図 1.1.2-1 CENTUM VP におけるライセンス管理のシステム構成例

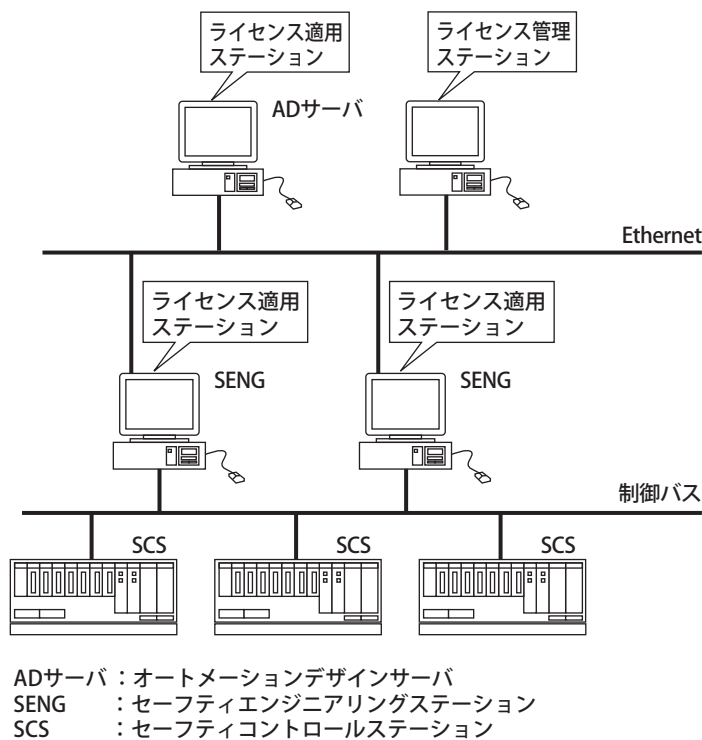


図 1.1.2-2 ProSafe-RS におけるライセンス管理のシステム 構成例

**補足**

原則として、ライセンス管理の対象製品がインストールされ、24 時間稼動しているコンピュータをライセンス管理ステーションとします。また、ライセンス管理の対象製品のライセンスマネージャだけをインストールしたコンピュータをライセンス管理ステーションとすることも可能です。

**■ AD サーバが複数のプロジェクトを管理する場合の構成**

AD サーバで、複数のエンジニアリングプロジェクトを管理する場合、エンジニアリングサーバ機能のライセンスを搭載したステーションは、エンジニアリングプロジェクトに対応するライセンスプロジェクトのうちの、いずれか一つのライセンスプロジェクトに含まれるようにしてください。複数のライセンスプロジェクトにエンジニアリングサーバ機能のライセンスを搭載したステーションを登録しないでください。具体的には、以下のようになります。

- AD サーバをエンジニアリングサーバ機能のみを搭載したステーションとする場合  
 エンジニアリングサーバ機能のみを搭載したステーションは、いずれか一つのライセンスプロジェクトのみに作成してください。エンジニアリングサーバ機能のライセンスは、エンジニアリングサーバ機能のみを搭載したステーションに登録したライセンスプロジェクトで、割り付け作業をしてください。
- AD サーバをエンジニアリングサーバ機能以外の機能も搭載したステーションとする場合  
 エンジニアリングサーバ機能のライセンスは、いずれか一つのライセンスプロジェクトでのみ、ライセンスの割り付けと配布をしてください。

以下の例では、AD サーバを搭載したステーションは、PJT-A に対応したライセンスプロジェクト (LPJT-A) に定義され、LPJT-A のライセンス管理ステーションからエンジニアリングサーバ機能のライセンスを配布されます。

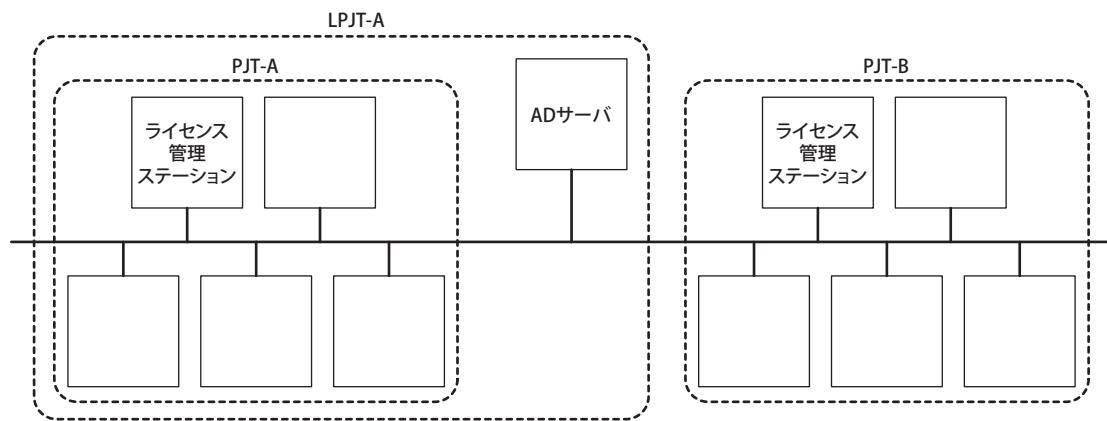


図 1.1.2-3 AD サーバが複数のプロジェクトを管理している場合

## ■ ライセンス管理のプロセス

当社では、購入いただいたソフトウェアパッケージ使用権の実体としてライセンスキーファイルを提供しています。ライセンスキーファイルは、ライセンスメディアに格納して提供されます。

ライセンス管理ステーションでは、ライセンスメディアからライセンスキーファイルを読み込むことにより購入したライセンスを認識します。

ライセンスを各ステーションへ割り付けたあと、配布することでソフトウェアパッケージを有効化します。

### 補足

ライセンス管理ステーションでは、CENTUM VP R5 から R6、ProSafe-RS R3 から R4 へのライセンスの更新もできます。

ライセンスの割り付け対象ステーションを次に示します。

- ・ ライセンス適用ステーション  
ライセンス適用ステーションにインストールされたソフトウェアパッケージのライセンスを割り付けます。
- ・ ライセンス管理ステーション  
ライセンス管理ステーション自体 (\*1)にインストールされたソフトウェアパッケージのライセンスを割り付けます。
- ・ FCS/SCS  
FCS または SCS 用のソフトウェアのライセンスを割り付けます。
- ・ PJTCOM  
PJTCOM は、プロジェクト入出力ライセンスが割り付けられる仮想のステーションです。

\*1: ライセンスマネージャだけをインストールしたステーションを除きます。

### 補足

ハードウェアに付属するソフトウェアのライセンスは、ライセンスマネージャでの管理対象になりません。

ライセンスの割り付け後、ステーションへのライセンスの配布を行います。このとき、各ステーションに割り付けられたライセンスは、次のように配布されます。

- ・ ライセンス適用ステーションに割り付けられたライセンス  
ライセンス管理ステーションから該当するライセンス適用ステーションに配布されます。
- ・ ライセンス管理ステーションに割り付けられたライセンス  
ライセンス管理ステーションから自ステーションに配布されます。

- FCS または SCS に割り付けられたライセンス  
FCS に割り当てられたライセンスは、システム生成機能が搭載されたステーションに配布され、SCS に割り当てられたライセンスは、SENG に配布されます。
  - PJTCOM に割り付けられたライセンス  
PJTCOM に割り付けられたライセンスは、CENTUM VP ではシステム生成機能が搭載されたステーションに配布されます。ProSafe-RS では、SENG に配布されます。
- ライセンスの配布後、各ステーションでライセンスの反映作業を行うことで、ソフトウェアパッケージが有効化されます。

---

**参照**

PJTCOM については、以下を参照してください。

「■ ステーション名およびコンピュータ名デフォルト値」 ページ 2-9

---

### 1.1.3 ライセンス管理の作業概要

ここでは、はじめてライセンスプロジェクトを構築するときのライセンス管理作業と、その前後の作業について説明します。

#### 重要

実際にライセンス管理作業を行う前に、作業に必要な情報を準備しておいてください。

#### ■ ライセンス管理開始前に必要な作業

ライセンス管理をはじめる前に、次の作業が必要です。

- ・ ソフトウェアパッケージのインストール  
ライセンス管理の対象製品を動作させるすべてのコンピュータにソフトウェアパッケージをインストールしてください。
- ・ ライセンス管理ステーションの決定  
コンピュータにライセンスマネージャだけインストールしてライセンス管理ステーションとして使用するときには、ライセンスマネージャのインストールを実施してください。  
そうでない場合は、ライセンス管理の対象製品がインストールされているコンピュータの中から、ライセンス管理ステーションとするコンピュータを決定してください。  
ライセンス管理の対象製品をインストールしたコンピュータには、ライセンスマネージャが自動的にインストールされています。

#### 補足

システム全体のライセンスの整合性をチェックするため、ライセンス管理ステーションは連続稼働のコンピュータにすることを推奨します。ただし、ライセンス管理ステーションが停止していてもライセンス適用ステーションや FCS/SCS は正常に動作します。

#### ■ はじめてライセンスプロジェクトを構築する時の作業

はじめてライセンスプロジェクトを構築するときのライセンス管理作業について示します。

ライセンス管理作業は、ライセンス管理ステーションで行う作業と、ライセンス適用ステーションで行う作業に分かれます。

#### ● ライセンス管理ステーションで行う作業

最初にライセンス管理ステーションでライセンスマネージャを起動します。

ライセンス管理ステーションで行う作業の流れを次に示します。

1. ライセンスプロジェクトの新規作成  
ライセンスプロジェクトを作成します。ライセンスプロジェクトを作成するときには、ユーザがライセンスプロジェクト名を指定します。
2. ライセンスの読み込み  
ライセンスメディアからライセンスキーファイルを読み込み、使用可能なライセンスを登録します。このとき、プロジェクト ID 番号の入力が必要です。

#### 重要

- ・ ライセンスキーファイルは、ライセンスメディアに記載されている有効期間内にライセンスマネージャで読み込んでください。有効期間を超過すると、ライセンスキーファイルはライセンスマネージャで読み込めません。有効期間を超過した場合は、当社にお問い合わせください。
- ・ ライセンスキーファイルはライセンスプロジェクトのリストア時に使用するので、有効期間超過後も必ず保管しておいてください。

3. ステーションの設定  
ライセンス管理の対象となるステーションを設定します。
4. ライセンスのステーションへの割り付け  
使用可能なライセンスを各ステーションに割り付けます。
5. ライセンスの整合性チェック  
基本ソフトウェアとオプションソフトウェアが正しく組み合わせられているか、ライセンスが正しく割り付けられているかをチェックします。
6. ライセンスをステーションへ配布  
ライセンス適用ステーションへネットワーク経由、または外部メディア経由でライセンスを配布します。

### ● ライセンス適用ステーションで行う作業

ライセンス管理ステーションからライセンス適用ステーションへのライセンス配布後に、ライセンス適用ステーションのライセンスマネージャを起動します。

次の作業を行います。

- ・ ライセンスの反映  
ライセンスマネージャでライセンスの反映を行い、ソフトウェアパッケージを有効化します。

#### 補足

ライセンスを初めて配布した場合は、ライセンスは自動的に反映されます。  
2 回目以降の配布の場合は、反映のための作業が必要です。

#### 重要

本作業はすべてのライセンス適用ステーションで行う必要があります。また、ライセンス管理ステーション自体へライセンスを割り付け、ソフトウェアパッケージを動作させる場合は、ライセンス管理ステーション自体でも同様の作業をしてください。

### ■ ライセンス反映完了後の作業

ライセンス管理ステーションとライセンス適用ステーションで、有効化したソフトウェアパッケージに応じて、必要な作業をしてください。

## 1.2 ライセンスマネージャ

ライセンスマネージャの機能、ユーザ権限、操作方法、ウィンドウ構成について説明します。



## 1.2.1 ライセンスマネージャの機能

ここでは、ライセンスマネージャの機能についてライセンス管理ステーションとライセンス適用ステーションにわけて説明します。

### ■ ライセンス管理ステーションでのライセンスマネージャの機能

ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャでは、次の機能が使用できます。

- ・ ライセンスの管理  
ライセンスプロジェクトを作成して、システム全体に対して、ライセンスの割り付け、配布、変更などの管理をします。
- ・ ライセンス適用状況の監視  
システム全体のライセンス適用状況を監視します。
- ・ ライセンス管理情報の自動バックアップ  
ライセンス管理ステーションが故障した場合に備え、ライセンス管理情報を自動バックアップします。
- ・ ライセンスの再配布  
ライセンス適用ステーションが故障したときに、交換したライセンス適用ステーションにライセンスを再配布します。
- ・ 自ステーションに配布されたライセンスの反映  
ライセンス管理ステーション自体に配布されたライセンスを反映して、ソフトウェアパッケージを有効化／無効化します。

### ■ ライセンス適用ステーションでのライセンスマネージャの機能

ライセンス適用ステーションのライセンスマネージャでは、次の機能が使用できます。

- ・ 配布されたライセンスの反映  
配布されたライセンスを反映し、ソフトウェアパッケージを有効化／無効化します。
- ・ 配布されたライセンスの監視  
自ステーションに配布されたライセンスを監視します。

## 1.2.2 ライセンスマネージャのユーザ権限

ここでは、ライセンスマネージャのユーザ権限について説明します。

### ■ ライセンスの管理ができるユーザ権限

ライセンスマネージャで使える機能は、ユーザ権限により異なります。ユーザが管理者権限を持つユーザグループに含まれる場合、ライセンスマネージャのメンテナンス権限を持つことができます。メンテナンス権限を持つユーザのみがライセンス管理ステーションを編集モードで操作できます。

表 1.2.2-1 メンテナンス権限を持つユーザグループ

製品名	ユーザグループ	
	従来モデル (*1)	標準モデル (*1)
CENTUM VP	Administrators	CTM_MAINTENANCE、 CTM_MAINTENANCE_LCL
ProSafe-RS	Administrators	PSF_MAINTENANCE、 PSF_MAINTENANCE_LCL

\*1: IT セキュリティで設定するセキュリティモデルです。

#### 参照

編集モードについては、以下を参照してください。

「■ 動作モード」 ページ 1-16

## 1.2.3 ライセンスマネージャの起動・終了方法と動作モード

ここでは、ライセンスマネージャの起動・終了方法と動作モードについて説明します。

### ■ ライセンスマネージャの起動方法

ライセンス管理ステーション、またはライセンス適用ステーションにて、License Manager を起動してください。

ライセンスマネージャウィンドウが表示されます。

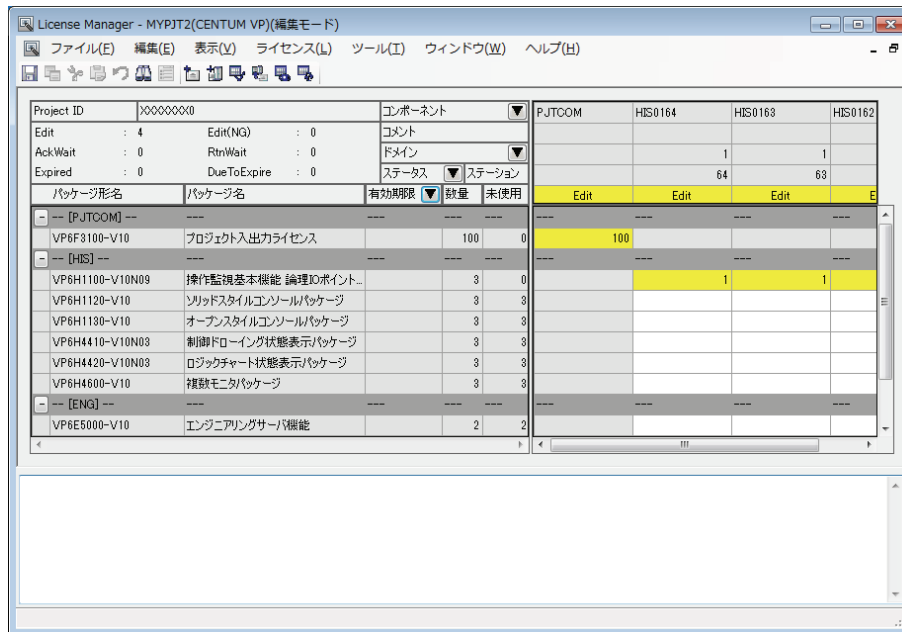


図 1.2.3-1 ライセンス管理ステーションでのライセンスマネージャ

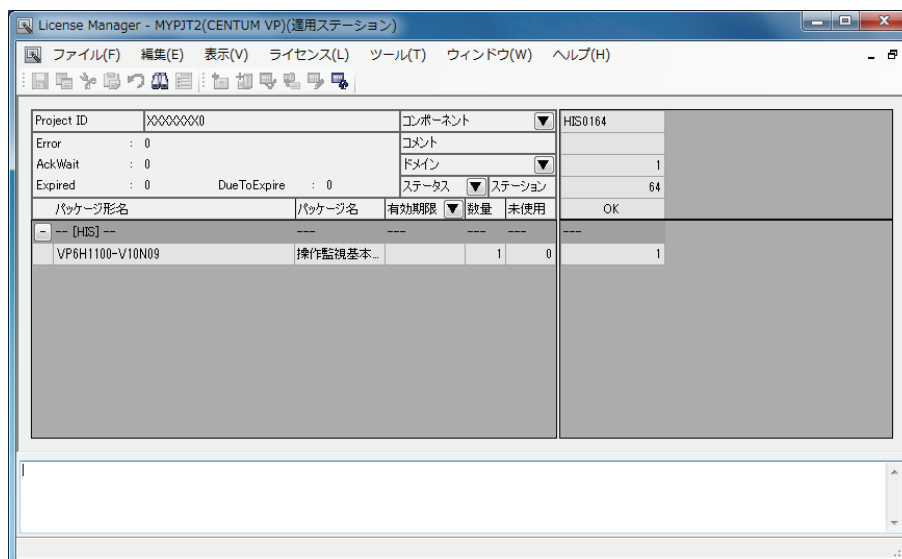


図 1.2.3-2 ライセンス適用ステーションでのライセンスマネージャ

**補足**

ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャを2回目以降に起動するときに、作業中のデータを開くかどうか確認するダイアログボックスが表示される場合があります。このときは、その前のライセンスマネージャ起動時にライセンスの割り付けの変更後、配布せずにライセンスマネージャを終了しています。このダイアログボックスが表示されたときには、ライセンスの割り付けを変更した状態でライセンスプロジェクトを開きたい場合は、[はい] をクリックし、最後にライセンスの配布をした状態でライセンスプロジェクトを開きたいときには [いいえ] をクリックしてください。

**■ ライセンスマネージャの終了**

ライセンスマネージャのメニューバーから、[ファイル] – [終了] を選択してください。

**■ 動作モード**

ライセンスマネージャは、動作モードにより使用できる機能が異なります。ライセンスマネージャの動作モードと使用できる機能の関係を次に示します。

表 1.2.3-1 ライセンスマネージャの動作モード

ステーション	動作モード	機能
ライセンス管理ステーション	編集モード	ライセンスプロジェクトの作成 ライセンスメディアからのライセンスの読み込み ライセンス管理対象の定義 各ライセンス適用ステーション へのライセンス割り付け 各ライセンス適用ステーションへのライセンス配布 自ステーションに配布されたライセンスの反映と、インストールしたソフトウェアパッケージの有効化／無効化
	監視モード	各ライセンス適用ステーションのライセンス適用状況の表示
ライセンス適用ステーション	適用ステーションモード	自ステーションに配布されたライセンスの反映と、インストールしたソフトウェアパッケージの有効化／無効化 自ステーションのライセンス適用状況の表示

**■ 動作モードの切り替え**

ライセンス管理ステーションの動作モードの切り替えは、次の2種類です。

**● 監視モードから編集モードへの切り替え方法**

ライセンスマネージャのメニューバーから、[表示] – [編集モード] を選択してください。

**● 編集モードから監視モードへの切り替え方法**

ライセンスマネージャのメニューバーから、[表示] – [監視モード] を選択してください。

**■ ライセンスマネージャの機能とユーザ権限**

ライセンスマネージャで使用できる機能は、ユーザ権限により異なります。メンテナンス権限を持つユーザだけが、ライセンス管理ステーションを編集モードで操作できます。  
ステーションと動作モードごとのライセンスマネージャ機能の使用可否を次に示します。

表 1.2.3-2 ステーションと動作モードごとのライセンスマネージャ機能の使用可否

区分	ライセンスマネージャの機能	ステーション		
		管理ステーション (編集モード)	管理ステーション (監視モード)	適用ステーション
ライセンス情報の管理	ライセンスプロジェクトの新規作成	可	可 (*1)	可 (*1)
	ライセンスプロジェクトの削除	可	不可	不可
	ライセンスプロジェクトのプロパティ変更	可	不可	不可
	ライセンスプロジェクトのバックアップ	可	不可	不可
	ライセンスプロジェクトのリストア	可	可 (*1)	可 (*1)
ステーション構成の定義	ステーションの追加	可	不可	不可
	ステーションの削除	可	不可	不可
	ステーションのプロパティ変更	可	不可	不可
ライセンスの管理	ライセンスの追加	可	不可	不可
	ライセンスの移動	可	不可	不可
	ライセンスの削除	可	不可	不可
	新設用ライセンスと増設用ライセンスのマージ	可	不可	不可
	ライセンスの更新	可	不可	不可
ライセンス割り付けの編集	ライセンスの割り付け	可	不可	不可
	パッケージリストのインポート	可	不可	不可
	パッケージリストのエクスポート	可	可	可 (*2)
	整合性のチェック	可	不可	不可
	ライセンス編集状況のファイル出力	可	不可	不可
ライセンスの配布と反映	ライセンス配布 (ネットワーク経由)	可	不可	不可
	マスタ配布 (ネットワーク経由) (*3)	可	不可	不可
	ライセンス反映 (ネットワーク経由)	可	可 (*1)	可 (*1)
	ライセンス配布 (外部メディア経由)	可	不可	不可
	マスタ配布 (外部メディア経由) (*3)	可	不可	不可
	ライセンス反映 (外部メディア経由)	可	不可	可 (*1)
	ライセンス 返還 (外部メディア経由)	可	不可	不可
ライセンス状況の監視	ライセンス適用状況の監視	不可	可	可 (*2)
	ライセンス適用状況のファイル出力	不可	可	可 (*2)
その他	編集モードへの切り替え	不可	可 (*1)	不可
	監視モードへの切り替え	可	不可	不可

\*1: メンテナンス権限を持つユーザでのみ使用可能

\*2: その適用ステーションに配布されたライセンスに対してのみ使用可能

\*3: マスタ配布とは、配布済みの割り付け情報を再配布する機能です。

## 1.2.4 ライセンスマネージャのウィンドウ構成

ここでは、ライセンスマネージャのウィンドウ構成について説明します。

### ■ メインウィンドウ

ライセンスマネージャのメインウィンドウの各部の名称を次に示します。

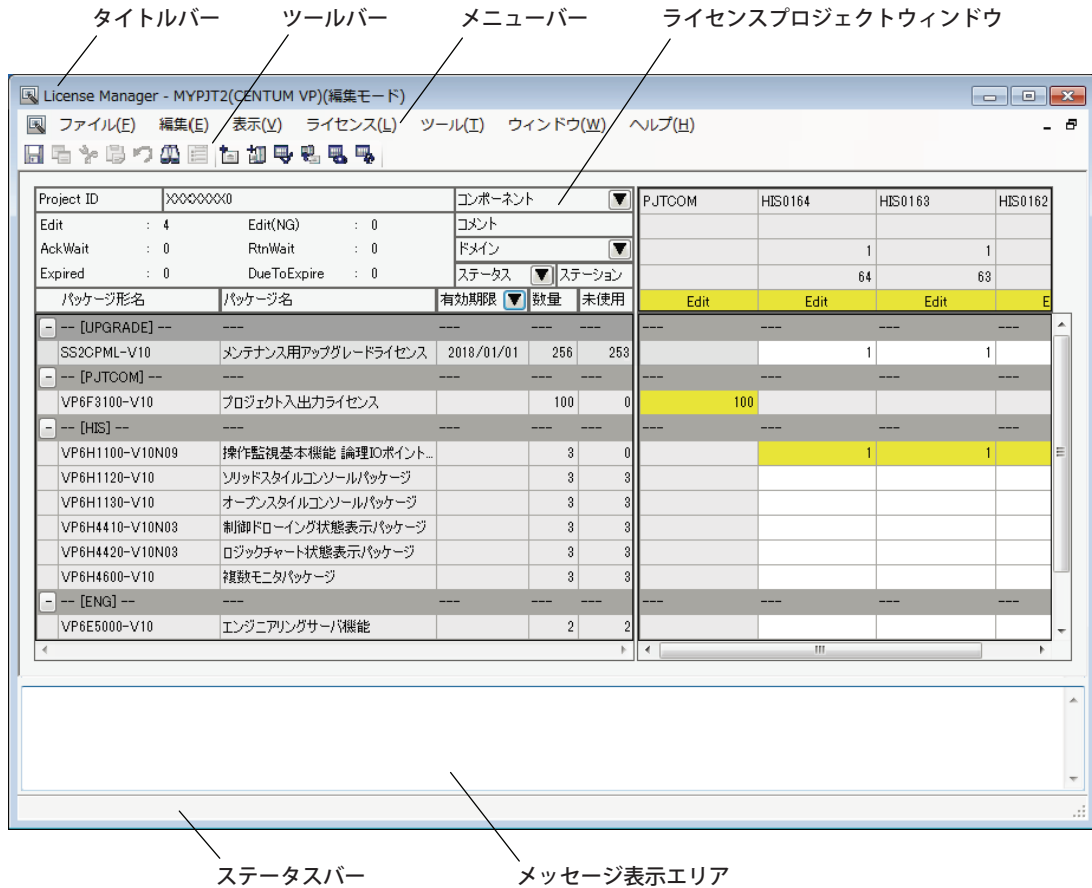


図 1.2.4-1 ライセンスマネージャのメインウィンドウ

### ■ ライセンスプロジェクトウィンドウ

ライセンスプロジェクトウィンドウの各部の名称を次に示します。

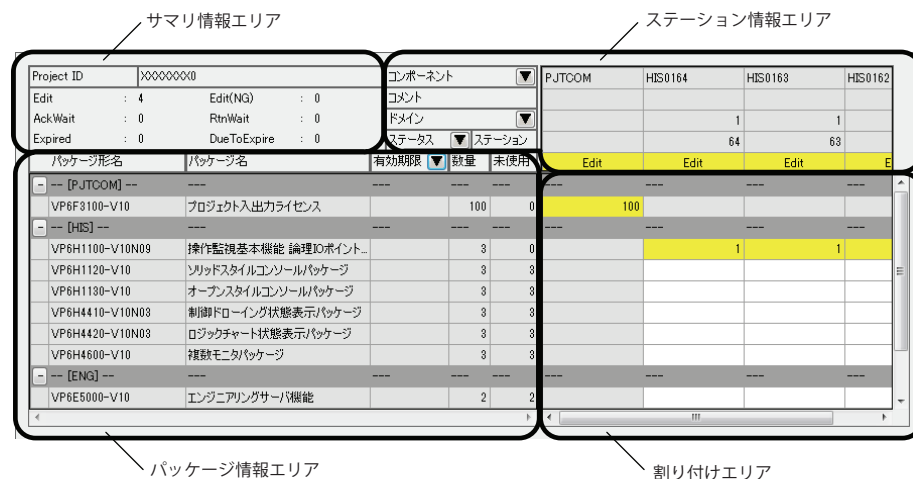


図 1.2.4-2 ライセンスプロジェクトウィンドウ

## ● サマリ情報エリア

サマリ情報エリアには、プロジェクト ID とライセンスプロジェクト全体のライセンス適用状況が表示されます。

ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャでは、ライセンスプロジェクト全体のライセンス適用状況がこのエリアに表示されます。ライセンス適用ステーションのライセンスマネージャでは、自ステーションに割り付けられたライセンス適用状況がこのエリアに表示されます。

次にサマリ情報エリアの表示項目を示します。

- ・ プロジェクト ID
- ・ ステータス表示：次の表に示すとおり、動作モードごとに表示内容が異なります。

表 1.2.4-1 ステータス表示の内容

ステーション	ステータス	説明	表示対象
ライセンス管理ステーション (編集モード)	Edit	ライセンス編集集中のステーション数	ライセンスプロジェクト全体
	Edit(NG)	整合性チェックでエラーとなったステーション数	
	AckWait	ライセンス反映待ちのステーション数	
	RtnWait	ライセンス返還待ちのステーション数	
	Expired	ライセンス期限切れのステーション数	
	DueToExpire	ライセンス期限切れまで 30 日以内のステーション数	
ライセンス管理ステーション (監視モード)	Error	ライセンス異常のステーション数	ライセンスプロジェクト全体
	Unknown	通信エラーにより状態を確認できないステーション数	
	AckWait	ライセンス反映待ちのステーション数	
	RtnWait	外部メディア経由で削除したライセンスの返還待ちのステーション数	
	Expired	ライセンス期限切れのステーション数	
	DueToExpire	ライセンス期限切れまで 30 日以内のステーション数	
ライセンス適用ステーション	Error	ライセンス異常の状態	自ステーション
	Expired	ライセンス期限切れの状態	
	DueToExpire	ライセンス期限切れまで 30 日以内の状態	
	AckWait	ライセンス反映待ちの状態	

## ● パッケージ情報エリア

パッケージ情報エリアには、ライセンスを保有しているソフトウェアパッケージが表示されます。

ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャでは、管理しているソフトウェアパッケージがこのエリアに表示されます。ライセンス適用ステーションのライセンスマネージャでは、自ステーションにライセンスを割り付けられたソフトウェアパッケージがこのエリアに表示されます。

パッケージ情報エリアの表示項目を、次の表に示します。表示項目は、ライセンスマネージャのメニューバーの「表示」を選択したのち、表示/非表示を切り替えられます。

表 1.2.4-2 パッケージ情報エリアの表示項目

表示項目	説明	デフォルトの設定
パッケージ形名	ライセンスのパッケージ形名仕様コード（例：VP6H1100-V10N03）	表示
内部パッケージ形名	CENTUM VP R6 のライセンスのパッケージ形名仕様コードに対応する CENTUM VP R5 のライセンスのパッケージ形名仕様コード、または ProSafe-RS R4 のライセンスのパッケージ形名仕様コードに対応する ProSafe-RS R3 のライセンスのパッケージ形名仕様コード (CENTUM VP の例：LHS1100-V10/N0003) (*1)	非表示
パッケージ名	ライセンスのパッケージ名	表示
有償	ライセンスが有償か無償かを表示	非表示
有効期限	ライセンスに有効期限がある場合は有効期限を表示 ソフトウェアライセンスの場合、有効期限まで、そのソフトウェアが使用できます アップグレードライセンスの場合、有効期限より前に発行されたレビジョンやパッチのインストールが可能です	表示
Ver.	ライセンスのバージョン番号 アップグレードライセンスの場合、空欄	非表示
数量	ライセンスの数量 アップグレードライセンスの場合、256 固定	常に表示
未使用	ステーションに割り付けられていないライセンスの数量	常に表示

\*1: 一部の画面では、CENTUM VP R5 または ProSafe-RS R3 のライセンスのパッケージ形名仕様コードが使用されるため、パッケージ情報エリアの表示項目に内部パッケージ形名を表示できます。

アップグレードライセンスの場合のみ、有効期限のセルの背景色が変わります。

表 1.2.4-3 有効期限のセルの背景色

背景色	説明
白色	現在の日付がアップグレードライセンスの有効期限より前
黄色	現在の日付がアップグレードライセンスの有効期限を過ぎている

また、使用ライセンス数がオーバーすると、未使用ライセンス数のセルの背景色が変わります。

表 1.2.4-4 未使用のセルの背景色

背景色	説明
白色	空きライセンスの数量が 0 以上のセル
赤色	所有しているライセンス数量以上にライセンスをステーションに割り付けたため、空きライセンスの数量がマイナスの値となったセル

## ● ステーション情報エリア

ステーション情報エリアには、ライセンス割り付け先のステーションの情報が表示されます。

ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャでは、ライセンスプロジェクト全体のステーションの情報が表示されます。ライセンス適用ステーションのライセンスマネージャでは、自ステーションの情報のみが表示されます。



**補足**

- ・ ライセンス管理ステーションで、FCS にライセンスを割り付けている場合は、システム生成機能を搭載したライセンス適用ステーションのステーション情報エリアに、対象の FCS の情報も表示されます。また、ライセンス管理ステーションで、SCS にライセンスを割り付けている場合は、ライセンス適用ステーションになっている SENG のステーション情報エリアに、対象の SCS の情報も表示されます。
- ・ ライセンス管理ステーションで、PJTCOM にプロジェクト入出力ライセンスが割り付いていた場合は、システム生成機能を搭載したライセンス適用ステーションまたはライセンス適用ステーションになっている SENG のステーション情報エリアに、PJTCOM の情報も表示されます。

次にステーション情報エリアの表示項目を示します。

- ・ コンポーネント：ステーション名
- ・ コメント：ステーションのコメント
- ・ ドメイン：ステーションのドメイン番号
- ・ ステーション：ステーションのステーション番号
- ・ ステータス：ステーションのライセンス適用状況

表 1.2.4-5 ステーションのライセンス適用状況

ステーション	ライセンス適用状況	背景色	状態	説明
ライセンス管理ステーション (編集モード)	OK	背景色なし	正常	ライセンス配布後で反映完了
	EDIT	黄色	警告	ライセンス割り付けを編集中、またはアップグレードライセンスを追加して未配布状態
	AckWait	黄色	警告	ライセンス配布後で反映待ち
	RtnWait	黄色	警告	外部記憶メディア経由で削除したライセンスの返還待ち
	Edit(NG)	赤色	エラー	ライセンス割り付けを編集中(割り付け内容にエラーあり)
ライセンス管理ステーション (監視モード) (*1)(*2)	OK	背景色なし	正常	ライセンスを正常に適用中
	DueToExp	黄色	警告	ライセンス期限切れまで 30 日以内
	Unknown	黄色	警告	通信エラーにより状態を確認できない
	NoLicense	赤色	エラー	ライセンスなし
	Error	赤色	エラー	ライセンス異常あり
	Expired	赤色	エラー	ライセンス期限切れ
ライセンス適用ステーション(*1)	OK	背景色なし	正常	ライセンスを正常に適用中
	DueToExp	黄色	警告	ライセンス期限切れまで 30 日以内
	Error	赤色	エラー	ライセンス異常あり
	Expired	赤色	エラー	ライセンス期限切れ
	NoLicense	赤色	エラー	ライセンスなし

\*1: ライセンス反映待ちのときには、ライセンス適用状況の文字列の前に\*が付きます。(例：\*OK)

\*2: ライセンス返還待ちのときには、ライセンス適用状況の文字列の前に\*\*が付きます。(例：\*\*OK)

**参照**

PJTCOM については、以下を参照してください。

「■ ステーション名およびコンピュータ名デフォルト値」ページ 2-9

## ● 割り付けエリア

割り付けエリアには、ステーションに対するライセンスの割り付け有無が表示されます。ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャでは、システム全体のライセンスの割り付けの有無が表示され、編集モードではライセンスの割り付けの有無を変更できません。

ライセンス適用ステーションのライセンスマネージャでは、自ステーションに対するライセンスの割り付け状態が表示されます。

また、このエリアの背景色でライセンスの割り付けの状態を示します。

表 1.2.4-6 割り付けエリアの背景表示

背景色	説明
白色	ライセンス割り付け可能なセル
黄色	ライセンス割り付けを変更、追加したセル、またはアップグレードライセンスを追加して期限延長したセル
赤色	整合性チェックでエラーとなったセル
灰色	ライセンス割り付け不可能なセル

## 参照

整合性チェックについては、以下を参照してください。

「■ はじめてライセンスプロジェクトを構築する時の作業」 ページ 1-10

## 2.    **ライセンスプロジェクトに対する基本 操作**

ここでは、ライセンスプロジェクトに対する基本的な操作を説明します。

## 2.1 新規ライセンス管理のプロセス

ここでは、初めてライセンスを管理するときに必要なものと、ソフトウェアパッケージを有効化するための基本ワークフローについて説明します。

### ■ 必要なもの

ライセンス管理を始めるときに必要なものは、次のとおりです。

- ・ ライセンスメディア（ライセンスキーファイル）
- ・ プロジェクト ID が記載されたライセンスシート

### ■ 基本ワークフロー

新規にライセンス管理をするときの基本ワークフローは、次のとおりです。ソフトウェアパッケージを有効化するときは、このワークフローに従って作業してください。ライセンスを配布するまでは、ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャで作業をします。

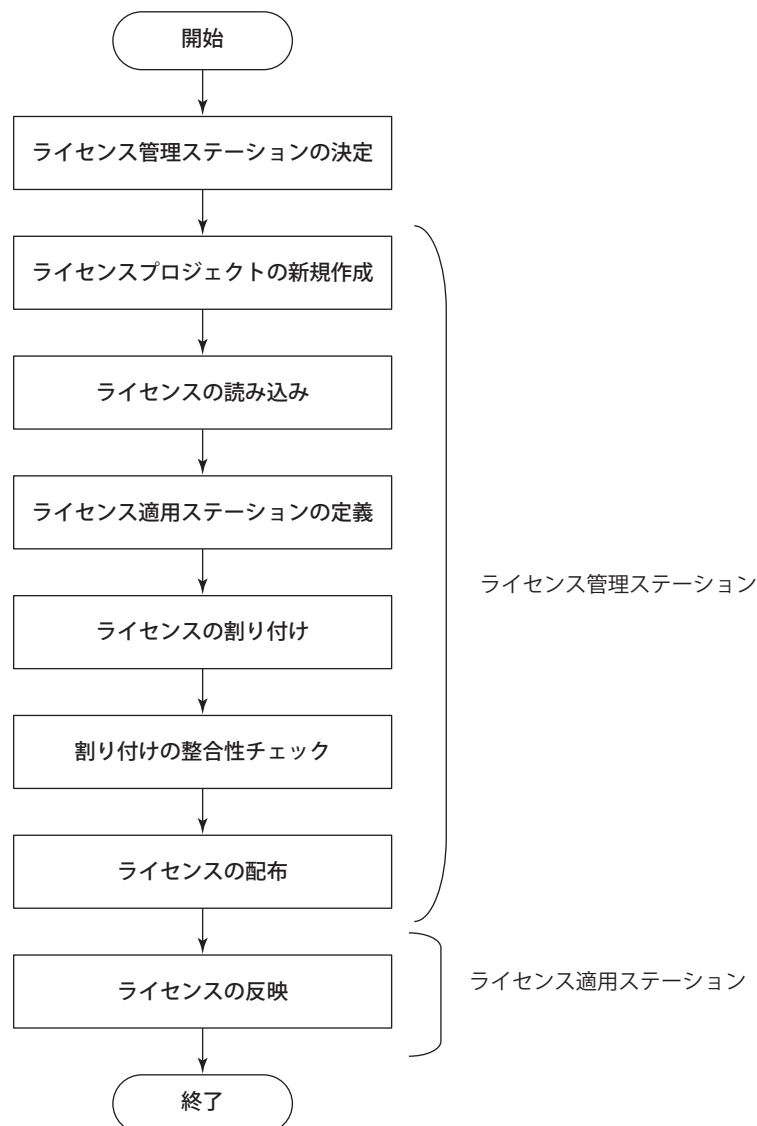


図 2.1-1 新規ライセンス管理の作業の流れ

## ■ ライセンス管理ステーションの決定

ライセンスマネージャがインストールされているコンピュータの中から、ライセンス管理ステーションとするコンピュータを決めます。24 時間稼動しているコンピュータがあれば、整合性チェックの観点からそのコンピュータを選択することを推奨します。

## 2.2 ライセンスプロジェクトの作成と削除

ここでは、ライセンス管理用のライセンスプロジェクトを作成する手順と削除する手順を説明します。ライセンスプロジェクトを作成するときは、バックアップフォルダを指定してください。

### 補足

バックアップフォルダを指定しなくてもライセンス配布作業はできます。ただし、ライセンスマネージャではライセンスプロジェクトを保存したときにライセンスプロジェクトを自動でバックアップするので、先にバックアップフォルダを指定してください。

### ■ ライセンスプロジェクトを作成する

ライセンスプロジェクトを作成する手順は、次のとおりです。

1. ライセンス管理ステーションのコンピュータにメンテナンス権限のあるユーザでログインしてください。
2. License Manager を起動してください。  
ライセンスマネージャウィンドウが表示されます。
3. メニューバーから、[ファイル] – [新規作成] – [プロジェクト] を選択してください。  
新規プロジェクト作成ダイアログボックスが表示されます。
4. 次の情報を指定してください。
  - ・ [プロジェクト名] ボックスにライセンスプロジェクトの名前を 1 文字以上、8 文字以下の文字列で入力してください。  
英文半角大文字、数字、ハイフン (–)、アンダースコア ( \_ ) が使えます。ただし、先頭文字は英文大文字にしてください。
  - ・ [システム] ドロップダウンリストからシステム 製品名を選択してください。
5. [OK] をクリックしてください。  
ライセンスプロジェクトが作成され、ライセンスマネージャの画面上にライセンスプロジェクトウィンドウが表示されます。

### 補足

1 台のライセンス管理ステーションで複数のプロジェクトのライセンスを管理する場合も、同様に本手順でライセンスプロジェクトを作成してください。

### ■ バックアップ先フォルダを指定する

ライセンスプロジェクトのバックアップ先には、同一ネットワーク内の別のコンピュータのハードディスクや自コンピュータに増設したハードディスクの Everyone 書き込み可能なフォルダまたは、ファイルサーバ上に IT セキュリティツールを使って設定した共有フォルダを指定してください。

ライセンスプロジェクトのバックアップ先フォルダを指定する手順は、次のとおりです。

1. ライセンスプロジェクトウィンドウの [Project ID] のフィールドを選択してください。
2. メニューバーから、[ファイル] – [プロパティ] を選択してください。  
ライセンスプロジェクトのプロパティ 設定ダイアログボックスが表示されます。
3. [バックアップ先フォルダ] ボックス横の [...] ボタンをクリックしてください。  
フォルダを選択するダイアログボックスが表示されます。
4. バックアップ先とするドライブとフォルダを選択してください。  
必要に応じて、[コメント] ボックスにコメントを入力してください。
5. [OK] をクリックしてください。  
ライセンスプロジェクトのバックアップ先フォルダが指定されます。

## ■ ライセンスプロジェクトを削除する

ライセンスプロジェクトを削除する手順は、次のとおりです。

1. ライセンスプロジェクトウィンドウの [Project ID] フィールドを選択してください。
2. メニューバーから、[ファイル] – [削除] を選択してください。  
ライセンスプロジェクトの削除を確認するダイアログボックスが表示されます。
3. [はい] をクリックしてください。  
ライセンスプロジェクトが削除されます。

## 2.3 ライセンスの読み込み

ライセンス管理ステーションにライセンスを読み込みます。ここでは、ライセンスメディアからライセンスキーファイルを読み込み、ライセンスプロジェクトにライセンスを登録する手順を説明します。

### ■ ライセンスを読み込む

ライセンスを読み込むときには、ライセンスメディアが必要です。

新規作成したライセンスプロジェクトにはじめてライセンスを読み込むときは、ライセンスシートに書かれているプロジェクト ID 番号が必要です。

ライセンスを読み込むときは、次の手順に従ってください。

1. ライセンスメディアを、ライセンス管理ステーションのドライブに挿入してください。
2. ライセンスマネージャのメニューバーから、[ライセンス] – [ライセンス追加] を選択してください。

フォルダを選択するダイアログボックスが表示されます。

3. ライセンスメディアを挿入したドライブを選択してください。

4. [OK] をクリックしてください。

5. 次のどちらかの操作をしてください。

- 新規作成したライセンスプロジェクトに、はじめてライセンスを読み込む場合は、プロジェクト ID 番号を確認するダイアログボックスが表示されるので、ライセンスシートに記載されているプロジェクト ID 番号を入力してください。
- ライセンスプロジェクトに、ライセンスを読み込んだことがある場合は、手順 6 に進んでください。

6. [OK] をクリックしてください。

ライセンスプロジェクトの保存を確認するダイアログボックスが表示されます。

7. [はい] をクリックしてください。

ライセンスメディアからライセンスキーファイルが読み込まれます。[いいえ] をクリックした場合は、読み込み作業が中止されます。

ライセンスキーファイルが読み込まれると、ライセンスプロジェクトウィンドウに表示されているプロジェクト ID 番号とパッケージ形名（ライセンス情報）が更新されます。

#### 補足

- 入力したプロジェクト ID 番号とライセンスメディアに格納されているプロジェクト ID 番号が一致しない場合は、エラーになります。正しいプロジェクト ID 番号を入力しなおしてください。
- 同じプロジェクト ID でライセンスメディアが複数枚ある場合は、ライセンスメディアごとにライセンスキーファイルを読み込んでください。
- [ライセンス] – [ライセンス追加] で指定するフォルダ下には、ひとつのライセンスキーファイルしか置くことができません。ライセンスキーファイルをライセンスメディアからローカルディスクなどにコピーして使用する場合は、ライセンスキーファイル単位で格納するフォルダを用意してください。



## 2.4 ライセンスを適用するステーションの定義

ここでは、ステーションを定義する手順について説明します。

ライセンス管理ステーションで、ライセンスを割り付けたいコンピュータや FCS または SCS を 1 台ずつ「ライセンス適用ステーション」として定義します。ライセンス管理ステーション自体もひとつの「ライセンス適用ステーション」として定義し、ライセンスを割り付けることができます。

ただし、ライセンス管理ステーションで、プロジェクト入出力ライセンスを読み込んだ場合は、PJTCOM のライセンス適用ステーションが自動で定義されます。そして、ライセンスプロジェクトウィンドウに PJTCOM が追加されます。

### 補足

この節で説明する手動での入力代わりに、「パッケージリスト」からステーション構成やライセンス割り付け情報をインポートできます。パッケージリストは、ステーション構成と各ステーションのライセンス割り付け情報が記述された CSV 形式のファイルです。

### 参照

パッケージリストのインポートについては、以下を参照してください。

「■ パッケージリストをインポートする」ページ 3-27

PJTCOM については、以下を参照してください。

「■ ステーション名およびコンピュータ名デフォルト値」ページ 2-9

## ■ ライセンス適用ステーションを定義する

ライセンス適用ステーションを定義する手順は、次のとおりです。

1. ライセンスマネージャのメニューバーから、[ファイル] - [新規作成] - [ステーション] を選択してください。  
または、ライセンスプロジェクトウィンドウのステーション情報エリア上で、右クリックし [ステーション追加] を選択してください。  
ステーション追加ダイアログボックスが表示されます。

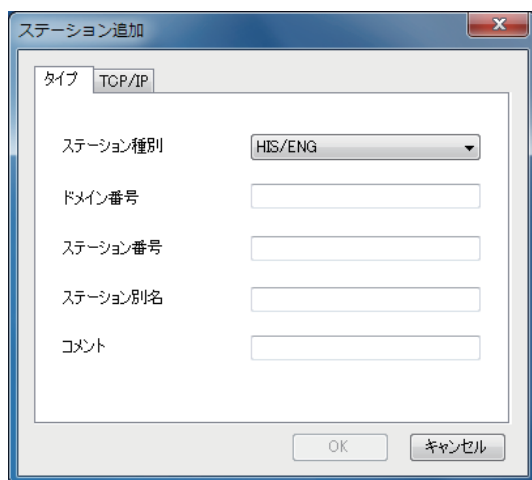


図 2.4-1 ステーション追加ダイアログボックス

2. [タイプ] タブの項目を指定してください。  
指定する項目については、後述の「ステーション追加ダイアログボックスの指定」をお読みください。
3. [TCP/IP] タブをクリックしてください。

Ethernet TCP/IP 設定のコンピュータ名ボックスに、コンピュータ名デフォルト値が表示されます。

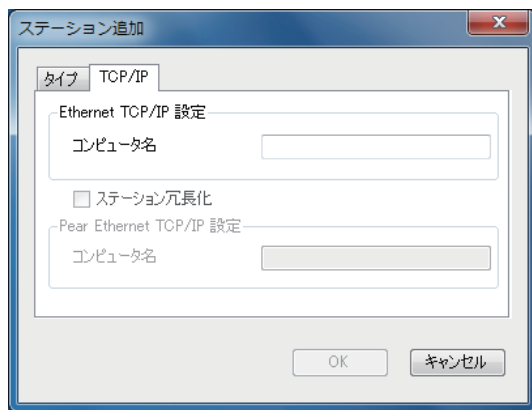


図 2.4-2 ステーション追加ダイアログボックス

4. コンピュータ名を必要に応じて指定してください。  
ステーション種別ドロップダウンリストで FCS、SCS、または PJTCOM を選択した場合、TCP/IP タブの項目の指定は不要です。
5. [OK] をクリックしてください。  
定義したステーションがライセンスプロジェクトウィンドウに追加されます。

#### 補足

ネットワーク切替型 UGS を使用する場合は、ステーション種別で UGS を選択してください。コンピュータ切替型 UGS を使用する場合は、ステーション種別で UGS2 を選択してください。ステーション種別で UGS を選択した場合、[ステーション冗長化] のチェックボックスがアクティブになります。ステーション種別で UGS2 を選択した場合は、[ステーション冗長化] チェックボックスはグレー表示となり、設定や変更はできません。

#### 参照

UGS 冗長化については、以下を参照してください。

統合ゲートウェイステーションリファレンス (IM 33J20C10-01JA) の「A1. UGS」

PJTCOM については、以下を参照してください。

「■ ステーション名およびコンピュータ名デフォルト値」 ページ 2-9

コンピュータ切替型冗長化については、以下を参照してください。

「2.11 コンピュータ切替型 UGS のライセンス管理」 ページ 2-21

ネットワーク切替型冗長化については、以下を参照してください。

「2.12 ネットワーク切替型冗長化 UGS のライセンス管理」 ページ 2-23

## ■ ステーション追加ダイアログボックスの指定

ステーション追加ダイアログボックスの [タイプ] タブの指定内容は次のとおりです。

- ・ ステーション種別  
ステーション種別をドロップダウンリストから選択してください。ライセンスプロジェクトで管理している製品で定義可能なステーションだけが表示されます。
- ・ ドメイン番号  
制御バスのドメイン番号を指定してください。  
制御バスに接続しないステーションの場合は、空白のままにしてください。
- ・ ステーション番号  
制御バスに接続している自ステーションのステーション番号を指定してください。  
制御バスに接続しないステーションの場合は、空白のままにしてください。

- ・ ステーション別名

任意のステーション別名を入力できます。半角英数字 8 文字以内で入力してください。ステーション別名を指定した場合、ライセンスプロジェクトウィンドウのコンポーネントエリアに、ステーション別名がステーション名よりも優先して表示されます。

- ・ コメント

任意のコメントを入力できます。

ステーションを追加すると、重複や入力範囲についてのエラーがないかを自動でチェックします。指定内容にエラーがあった場合は、ステーションプロパティエラーダイアログボックスが表示されるのでエラー内容を確認し、再度指定してください。

## ■ ステーション名およびコンピュータ名デフォルト値

ステーション名は、ステーション種別、ドメイン番号およびステーション番号から自動的に決定されます。

ステーション名のフォーマットは、次のとおりです。

ステーション種別 dd (ドメイン番号) ss (ステーション番号)

例：HIS0164

CENTUM VP と ProSafe-RS のステーション種別、自動的に決定されるステーション名およびコンピュータ名デフォルト値の対応は、次のとおりです。

表 2.4-1 CENTUM VP におけるステーション名およびコンピュータ名デフォルト値

ステーション種別	ステーション名	コンピュータ名デフォルト値
HIS/ENG	HIS[ddss]	HIS[ddss]
FCS	FCS[ddss]	N/A
SIOS	BCVO[ddss](SIOS)	E[ddss]
GSGW	FCS[ddss](GSGW)	GSGW[ddss]
APCS	FCS[ddss](APCS)	APCS[ddss]
UGS (*1)	BCVU[ddss](UGS) BCVU[ddss](UGS)(Peer) (*2)	E[ddss] E[ddss](Peer) (*2)
UGS2 (*3)	BCVU[ddss](UGS)	E[ddss]
UACS	UACS[ddss]	E[ddss]
PC (*4)	STN[ddss] (*5)	なし
PJTCOM (*6)	PJTCOM	N/A

\*1: ネットワーク切替型 UGS を使用する場合に選択します。

\*2: ネットワーク切替型冗長化の 2 台目。

\*3: コンピュータ切替型 UGS を使用する場合に選択します。

\*4: 操作監視機能やシステム生成機能と共存していない AD サーバの場合、ステーション種別は「PC」です。ステーション名はコンピュータ名と同じです。

\*5: ドメイン番号、ステーション番号の指定がない場合、ステーション名は自動的に決定されません。

\*6: プロジェクト入出力ライセンスが割り付けられる仮想のステーションです。PJTCOM は、ライセンスプロジェクトにひとつだけ定義します。また、ライセンスキーを追加すると自動作成されます。

表 2.4-2 ProSafe-RS におけるステーション名およびコンピュータ名デフォルト値

ステーション種別	ステーション名	コンピュータ名デフォルト値
HIS/SENG (*1)	HIS[ddss]	HIS[ddss]
SENG	STN[ddss] (*2)	なし
SCS	SCS[ddss]	N/A
PC (*3)	なし	なし
PJTCOM (*4)	PJTCOM	N/A

- \*1: CENTUM VP のシステムビューで HIS として定義されているステーションです。
- \*2: ドメイン番号、ステーション番号の指定がない場合、ステーション名はコンピュータ名と同じになります。
- \*3: SENG と共存していない AD サーバの場合、ステーション種別は「PC」です。
- \*4: プロジェクト入出力ライセンスが割り付けられる仮想のステーションです。PJTCOM は、ライセンスプロジェクトにひとつだけ定義します。また、ライセンスキーを追加すると自動作成されます。

## ■ バーチャルテスト機能を使用するとき

バーチャルテスト機能を使用するときは、FCS シミュレータ、UACS シミュレータ、または SCS シミュレータを起動するコンピュータに次のいずれかの設定をしてください。

- ・ 制御バスインタフェースカードまたは Vnet/IP インタフェースカードをセットアップしているコンピュータは、通常の HIS、UACS や SENG と同様の手順、内容で定義してください。
- ・ 制御バスインタフェースカードまたは Vnet/IP インタフェースカードをセットアップしないコンピュータは、ライセンス適用ステーションのステーション種別を「PC」として定義してください。ドメイン番号とステーション番号の指定は必要ありません。

## ■ ProSafe-RS でのライセンスプロジェクトと AD プロジェクトの関係

ProSafe-RS R4 以降では、ライセンスプロジェクトに定義したステーション（SCS）に対応する RS プロジェクトをすべて同じ AD プロジェクトに登録する必要があります。これらの関係を次の図に示します。

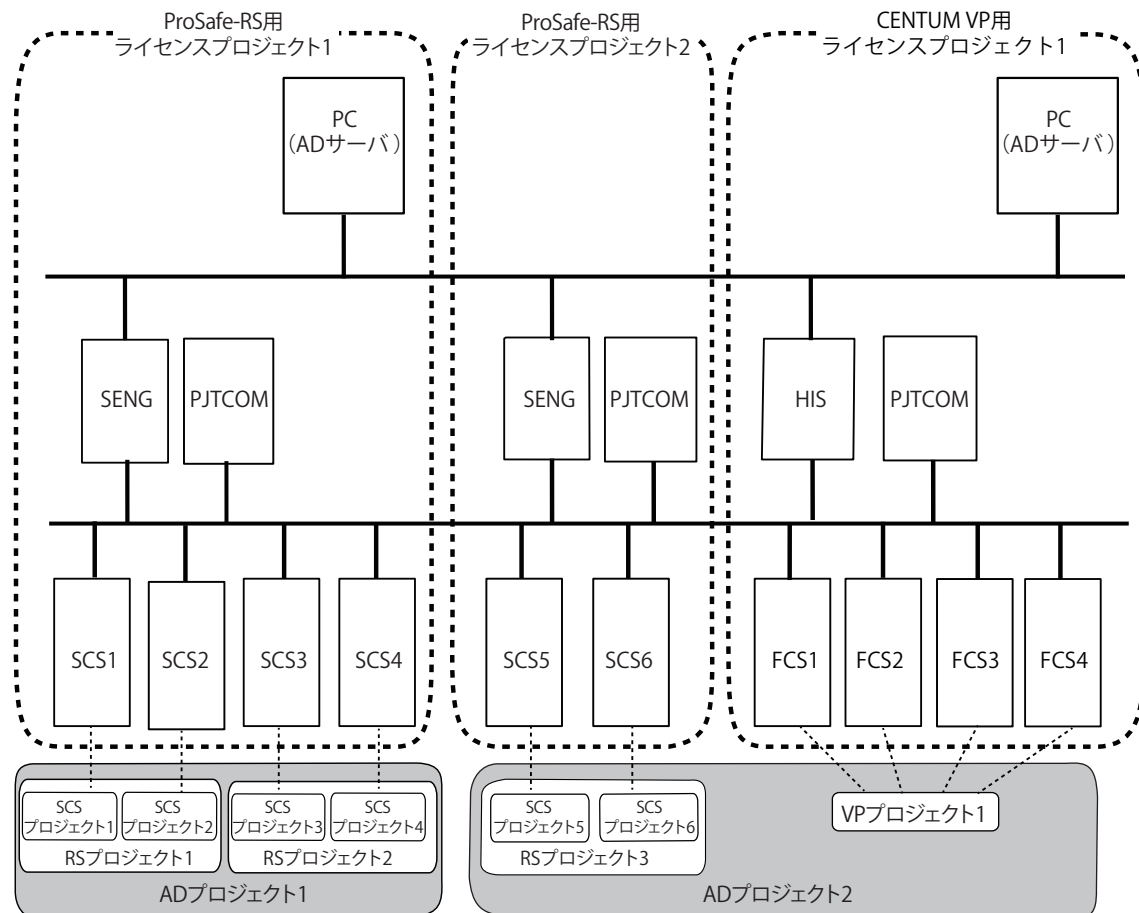


図 2.4-3 ProSafe-RS でのライセンスプロジェクトと AD プロジェクトの関係

## 2.5 ライセンス適用ステーションへのライセンス割り付け

ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャで、ソフトウェアパッケージを利用したいステーションに、ライセンスを割り付けます。

バーチャルテスト環境で実機が存在しないときでも、CENTUM VP プロジェクトや ProSafe-RS プロジェクトに定義された FCS や SCS の本数に応じたライセンスが必要です。

### ■ ライセンスを割り付ける

1. ライセンスプロジェクトウィンドウの割り付けエリアのセルを選択してください。
2. 各ステーションに割り付けるライセンスの数を入力してください。
  - ・ ライセンスを割り付ける場合は 1 を入力し、ライセンスを割り付けない場合は、空白のままにしてください。
  - ・ プロジェクト入出力ライセンスの場合、PJTCOM の割り付けエリアのセルに、ライセンスの数が入力されています。入力されているライセンスの数が、保有するプロジェクト入出力ライセンスのライセンス数と同じであることを確認してください。

ライセンスが割り付けられたステーションのステータスは、EDIT になり、セルの背景色が黄色になります。

#### 補足

ステーションに対して割り付け不可能なライセンスのセルには、ライセンスの数を入力できません。

#### 参照

ステータス表示については、以下を参照してください。

「■ ライセンスプロジェクトウィンドウ」 ページ 1-18

PJTCOM については、以下を参照してください。

「■ ステーション名およびコンピュータ名デフォルト値」 ページ 2-9

### ■ ライセンス割り付け情報をコピーする

あるステーションのライセンス割り付け情報を、別のステーションにコピーできます。手順は、次のとおりです。

1. ライセンスプロジェクトウィンドウのコピー元のステーション名をクリックしてください。
2. ライセンスマネージャのメニューバーから、[編集] - [コピー] を選択してください。  
または、ステーション名を右クリックし、[コピー] を選択してください。
3. コピー先のステーション名を選択してください。
4. メニューバーから [編集] - [貼り付け] を選択してください。  
または、コピー先のステーション名を右クリックし、[貼り付け] を選択してください。

ライセンス割り付け情報が貼り付けられたステーションのステータスは EDIT になり、セルの背景色が黄色になります。[貼り付け] 操作によって、ライセンス数が不足すると、ステータスは NG となります。この場合は、再度ライセンス割り付け情報を見直ししてください。

ステーションのライセンス割り付け情報をカットアンドペーストするときは、コピーの代わりにカットを選択してください。

## 2.6 ライセンス割り付けの整合性チェック

ライセンスマネージャでは、ライセンスの割り付けに関するエラーの有無を調べるため、整合性チェックができます。たとえば、ライセンスが割り付けられたステーションでソフトウェアパッケージの排他・依存関係などのエラーを見つけることができます。

整合性チェックでは、ライセンスが割り付けられているすべてのステーションがチェックの対象となります。

整合性チェックは、ライセンスを配布するときに自動的に実行されますが、ユーザが任意のタイミングでも実行できます。

---

### 参照

整合性チェックの項目については、以下を参照してください。

「Appendix 1. ライセンス割り付けの整合性チェックでチェックされる項目」 ページ App.1-1

---

### ■ ライセンス割り付けの整合性チェックを実行する

整合性チェックを実行するには、ライセンスマネージャのメニューバーから、[ライセンス] - [整合性チェック] を選択してください。

整合性チェックの結果がメッセージ表示エリアに表示されます。エラーが検出された場合は、割り付けエリア内の対応するセルが赤色になるので、割り付けを修正してください。

## 2.7 ネットワーク経由でのライセンス配布と反映

ここでは、割り付けられたライセンスをライセンス管理ステーションからライセンス適用ステーションへネットワーク経由で配布し、ライセンスを有効にする手順について説明します。

### ■ ライセンス適用ステーションにライセンスをネットワーク経由で配布する

ライセンス管理ステーションからライセンス適用ステーションに、ライセンスをネットワーク経由で配布する手順は、次のとおりです。

**重要** 配布対象のライセンス適用ステーションは起動しておく必要があります。

1. ライセンスマネージャのメニューバーから、[ライセンス] – [ライセンス配布] を選択してください。  
ライセンスが割り付けられ、ステータスが EDIT のステーションが、ライセンス配布ダイアログボックスに一覧表示されます。

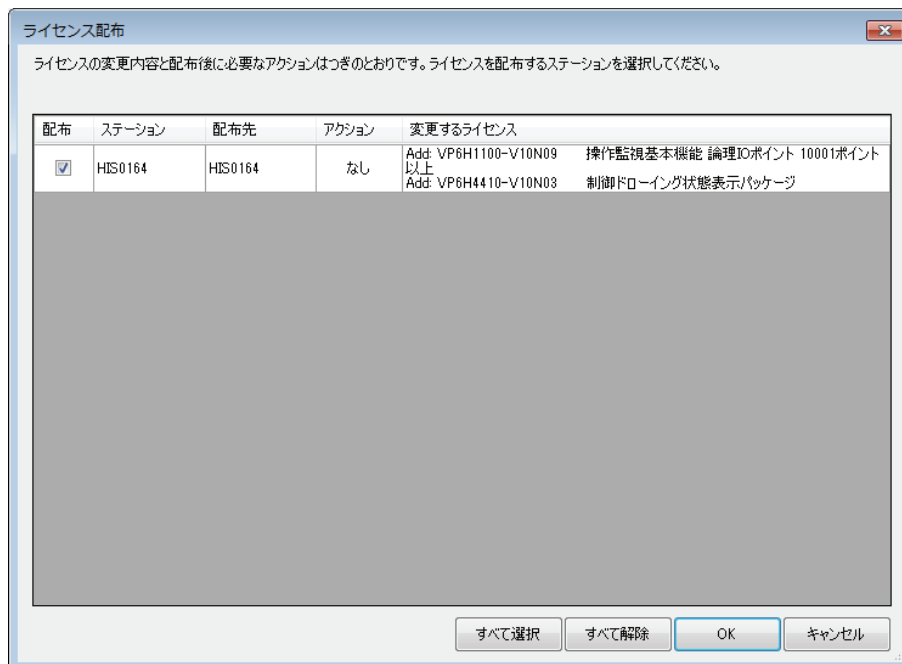


図 2.7-1 ライセンス配布ダイアログボックス

ライセンス配布ダイアログボックスのアクション欄には、配布されるライセンス適用ステーションでライセンスを反映するときに必要なアクションが表示されます。変更するライセンス欄にはライセンスのパッケージ名が表示されます。初回配布のときにはすべてのライセンスが「Add: <パッケージ形名>」で表示されます。

2. ライセンスを配布するステーションの「配布」欄のチェックボックスをオンにしてください。デフォルトでは、すべてのステーションが、配布先として選択されています。
3. [OK] をクリックしてください。

ライセンスマネージャは、次に示す項目のチェックを自動で行います。

- ・ 配布対象として選択したステーションのライセンス割り付けの整合性
- ・ 配布対象のライセンス適用ステーション内の割り付け数が、ソフトウェアパッケージのライセンス数を超過していないか



- ・ 配布対象のライセンス適用ステーションで、バージョン番号・言語・ステーション種別・製品間の割り付けの排他関係にエラーがないか
4. チェック内容にエラーがなければ、ライセンスプロジェクトの保存を確認するダイアログボックスが表示されます。
  5. [はい] をクリックしてください。  
配布対象にしたステーションにライセンスが配布されます。[いいえ] をクリックした場合は、配布作業が中止されます。
- ライセンス適用ステーションへライセンスの配布が成功すると、ステーションのステータスが EDIT から AckWait に変わります。

**補足**

配布先のステーションでライセンス反映処理が完了すると、ステーションのステータスが OK に変わります。

ライセンスのチェックで警告が発生した場合は、メッセージ表示エリアに警告メッセージが表示され、確認のダイアログボックスが表示されます。確認後に対象ステーションへのライセンスが配布されます。

ライセンス内容の送信に失敗した場合や、ライセンスのチェックでエラーが発生した場合は、対象ステーションへのライセンス配布を中止し、メッセージ表示エリアにエラーメッセージが表示されます。エラー発生の原因を取り除き、再度ライセンス配布を実行してください。また、複数のステーションを選択した場合、すべての配布先にライセンスを配布する必要があります。1 つでも配布に失敗すると、配布全体が失敗となります。

**● FCS または SCS のライセンス配布**

FCS または SCS のライセンスは、システム生成機能のジェネレーション時とダウンロード時に参照されるため、次のように配布されます。

- ・ FCS の場合  
FCS のライセンスは FCS 実機ではなく、エンジニアリング基本機能のライセンスが割り付けられたステーションが配布先になります。

**補足**

エンジニアリング基本機能のライセンスが割り付けられたすべてのステーションが、ネットワークに接続されている必要があります。一時的に、ネットワーク上に接続できない場合は、エンジニアリング基本機能のライセンスが割り付けられたすべてのステーションに対して、外部記憶メディア経由でライセンス配布してください。

- ・ SCS の場合  
SCS のライセンスは SCS 実機ではなく、SENG が配布先になります。

**補足**

すべての SENG が、ネットワークに接続されている必要があります。一時的に、ネットワーク上に接続できない場合は、すべての SENG に対して、外部記憶メディア経由でライセンス配布してください。

配布先に複数のステーションが表示された場合、少なくとも 1 つのステーションにライセンスが配布され反映されると、FCS または SCS ステーションのステータスは OK になります。

**● PJTCOM へのライセンス配布**

- ・ CENTUM VP R6 の場合  
エンジニアリング基本機能のライセンスが割り付けられたステーションが配布先になります。
- ・ ProSafe-RS R4 の場合  
SENG が配布先になります。

**参照**

PJTCOM については、以下を参照してください。

「■ ステーション名およびコンピュータ名デフォルト値」 ページ 2-9

## ■ ライセンス適用ステーションでライセンスを反映してソフトウェアパッケージを有効化する

ライセンス管理の対象製品がインストールされた後、最初にネットワーク経由で配布されたライセンスは、自動で反映されます。ライセンスの反映処理が完了すると、ライセンス適用ステーションのステータスは OK に変わります。

ライセンスが付与されたステーションでは、ソフトウェアパッケージが有効化されます。ライセンス適用ステーションでは、ライセンスマネージャの作業は必要ありません。ライセンス適用ステーションのライセンスマネージャを起動すると、自ステーションの適用状況が表示され、ライセンスの状態をステーション情報エリアで確認できます。

**補足**

ライセンス適用ステーションにライセンス配布を 2 回目以降実行したときは、ライセンス適用ステーションでライセンスの反映作業が必要になります。ライセンス反映後にステーションを再起動すると、ソフトウェアパッケージが有効化されます。

## 2.8 外部記憶メディアを使用したライセンス配布と反映

ライセンス管理ステーションと通信できないステーションへは、外部記憶メディアを使用してライセンスを配布し、ソフトウェアパッケージを有効化します。

外部記憶メディアを使用したライセンス配布では、はじめにライセンス管理ステーションのライセンスマネージャで「ライセンスファイル」が作成されるので、外部記憶メディアに保存してください。このライセンスファイルをライセンス適用ステーションで読み込むと、そのステーションで、ソフトウェアパッケージが利用可能になります。

### 重要

ウィルス感染を防止するため、外部記憶メディアには、未使用の CD-R の利用を推奨します。

### ■ ライセンスファイル

ライセンスファイルとは、ステーションへ割り付けたライセンスが格納されたファイルで、ステーションごとに作成されます。

### ■ 外部記憶メディアを使用してライセンスを配布する

外部記憶メディアを使用してライセンスを配布するには、はじめにライセンス管理ステーションのライセンスマネージャでライセンスファイルを作成します。

ライセンスファイルを作成する手順は、次のとおりです。

1. ライセンスマネージャのメニューバーから、[ライセンス] – [外部記憶メディア] – [ライセンス配布] を選択してください。  
ライセンスが割り付けられ、ステータスが EDIT のステーションが、外部記憶メディア経由のライセンス配布ダイアログボックスに表示されます。
2. ライセンスを配布するステーションの [配布] 欄のチェックボックスをオンにしてください。
3. [OK] をクリックしてください。  
ライセンス配布対象として選択されたステーションに対してライセンス割り付けの整合性がチェックされます。整合性チェックをクリアした場合、ライセンスプロジェクトの保存を確認するダイアログボックスが表示されます。
4. [はい] をクリックしてください。  
フォルダを指定するダイアログボックスが表示されます。[いいえ] をクリックするとライセンスファイルの作成作業が中止されます。
5. ライセンスファイルを保存するフォルダを指定してください。
6. [OK] をクリックしてください。  
ステーションごとに識別子の異なるフォルダが作成され、指定したフォルダにライセンスファイルが保存されます。ライセンスファイルが保存されると、ステーションのステータスが EDIT から OK に更新されます。

整合性エラー発生時には、対象ステーションに関するライセンスファイルの作成は中止され、メッセージ表示エリアにエラーメッセージが表示されます。エラー発生の原因を取り除き、再度ライセンス配布を実行してください。

### ■ ライセンスファイル名とパス、および有効期間について

ライセンスファイルのファイル名とパスおよび有効期間を次に示します。

- ・ ライセンスファイル名とそのパス

[ユーザが指定したフォルダ] ¥ [ステーション識別子] ¥ [プロジェクト名]. [ステーション名].1f  
例) F: ¥ PC001 ¥ MYPJT.PC001.1f

- ・ ライセンスファイルの有効期間  
ライセンスファイルの有効期間は 3 日間です。ライセンスファイルは作成してから 3 日以内に、ライセンス適用ステーションで読み込んでください。有効期間を超過すると、読み込めなくなります。

**補足**

ライセンスファイルの有効期間を過ぎて読み込めない場合や、ライセンスファイルを紛失してしまった場合は、マスタ配布機能を使ってライセンスを再配布してください。

## ■ 外部記憶メディアを使用してソフトウェアパッケージを有効化する

外部記憶メディアを使用して配布されたライセンスは、ライセンス適用ステーションで読み込み、ソフトウェアパッケージを有効化する必要があります。ソフトウェアパッケージを有効化する手順は、次のとおりです。

ライセンス管理ステーションで作成されたライセンスファイルを外部記憶メディアに格納しておいてください。

**重要**

ライセンス適用ステーションでは、ユーザが起動したライセンス反映対象製品のアプリケーションとアンチウイルスソフトウェアを停止しておいてください。

1. ライセンス適用ステーションにメンテナンス権限のあるユーザでログオンしてください。
2. ライセンスファイルが格納された外部記憶メディアを、ドライブに挿入してください。
3. License Manager を起動してください。  
ライセンスマネージャウィンドウが表示されます。
4. メニューバーから、[ライセンス] - [外部記憶メディア] - [ライセンス反映] を選択してください。  
フォルダを選択するダイアログボックスが表示されます。
5. 外部記憶メディアのドライブからライセンスファイルのあるフォルダを選択してください。
6. [OK] をクリックしてください。  
ライセンスファイルが期限切れでなく、ライセンスファイルの内容にエラーがない場合、ライセンス反映ダイアログボックスが表示されます。
7. [OK] をクリックしてください。  
ライセンスファイルが読み込まれ、ソフトウェアパッケージが有効化されます。また、ライセンスプロジェクトウィンドウが更新され、自ステーションの適用状況を確認できます。

**補足**

配布するライセンスのバージョンと、配布先のソフトウェアのバージョンが異なる場合、ライセンスの反映ができません。

## 2.9 ライセンス適用状況の監視

ライセンス管理ステーションとライセンス適用ステーションのそれぞれのライセンスマネージャで、次のようなライセンス監視ができます。

- ・ ライセンス管理ステーション  
ライセンスプロジェクト全体のライセンス適用状況を監視します。
- ・ ライセンス適用ステーション  
自ステーションのライセンス適用状況を監視します。

### ■ ライセンス適用状況を監視する

ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャのメニューバーから、[表示] – [監視モード] を選択してください。

監視モードに切り替えた時点で、ライセンスを配布したステーションのライセンス適用状況が表示されます。

各ステーションから最新の適用状況を取得したい場合は、メニューバーから、[表示] – [監視更新] を選択してください。

#### 補足

ライセンスプロジェクトに含まれるステーションのうち、ライセンスを配布していないステーションは表示されません。

ライセンス適用ステーションでは、ライセンスマネージャ起動時に、自ステーションのライセンス適用状況が表示されます。

#### 参照

ステータス表示については、以下を参照してください。

「■ ライセンスプロジェクトウィンドウ」 ページ 1-18

### ● タスクトレイでライセンス適用状況を監視する

タスクトレイに表示されるアイコンで、ライセンス適用状況を監視できます。

#### 参照

タスクトレイに表示されるアイコンについては、以下を参照してください。

「■ タスクトレイでのライセンス適用状況表示」 ページ App.2-1

### ■ アラームを通知する

ライセンス適用状況の異常を検出したとき、その内容をシステムアラームメッセージでオペレータに通知します。

システムアラームメッセージが通知されないステーションでは、アラームを通知するダイアログボックスが表示されます。

#### 参照

ライセンス適用状況の異常を検出したときに発生するシステムアラームメッセージについては、以下を参照してください。

操作監視メッセージ (IM 33J05A30-01JA) の「2.4 通信関連メッセージ (メッセージ番号 0301...0397)」のメッセージ番号 0373

アラームについては、以下を参照してください。

「Appendix 3. メッセージ」 ページ App.3-1

## 2.10 ライセンスプロジェクトの保存

ライセンス配布前の編集集中のステーション定義やライセンス割り付け情報は、ライセンスプロジェクトに作業中データとして保存できます。ライセンスプロジェクトを保存する場合は、ライセンスマネージャのメニューバーで、[ファイル] – [保存] を選択してください。

次回ライセンスマネージャを起動したときに作業中のデータを開くか、ライセンスの配布が完了しているデータ（マスタ）を開くかを選択できます。

## 2.11 コンピュータ切替型 UGS のライセンス管理

コンピュータ切替型 UGS のライセンス管理では、コンピュータ切替型 UGS 用のステーション名を割り付けます。コンピュータ切替型冗長化 UGS は、ライセンスマネージャ上では、1 台のステーションとして認識されます。そのステーションに対して、冗長化用のライセンスを割り付けます。

### 補足

コンピュータ切替型冗長化 UGS を使用する場合、冗長化用のソフトウェアライセンスが必要になります。コンピュータ切替型 UGS をシングル構成で使用する場合は、「統合ゲートウェイステーション(UGS2)基本機能ライセンス」のみ必要になります。

### ■ コンピュータ切替型 UGS を定義する

コンピュータ切替型 UGS を定義する手順は、次のとおりです。

1. ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャを編集モードで起動してください。
2. メニューバーから、[ファイル] – [新規作成] – [ステーション] を選択してください。  
ステーション追加のダイアログボックスが表示されます。
3. [タイプ] タブの [ステーション種別] ドロップダウンリストで「UGS2」を選択し、次の項目を指定してください。
  - ・ ドメイン番号
  - ・ ステーション番号

### 補足

任意のステーション別名とコメントを入力できます。

4. [TCP/IP] にタブを切り替え、Ethernet TCP/IP の設定セクションで 1 台目のコンピュータ名を入力してください。
5. [OK] をクリックしてください。  
常に 1 台のステーションとして、ライセンスプロジェクトウィンドウに追加されます。

### ■ コンピュータ切替型 UGS にライセンスを割り付ける

コンピュータ切替型 UGS のライセンスを割り付けてください。

### 参照

ライセンスの割り付けについては、以下を参照してください。

「■ ライセンスを割り付ける」 ページ 2-11

### ■ コンピュータ切替型 UGS にライセンスを配布する

通常の配布と同様です。

### 参照

ネットワーク経由でライセンスを配布する方法については、以下を参照してください。

「■ ライセンス適用ステーションにライセンスをネットワーク経由で配布する」 ページ 2-14

### ■ コンピュータ切替型 UGS でライセンスを反映する

コンピュータ切替型冗長化 UGS では、稼動側 UGS だけでライセンスを反映してください。コンピュータ切替型 UGS のシングル構成の場合は、通常の反映と同様です。

---

**参照**

ライセンス反映については、以下を参照してください。

「■ ライセンス適用ステーションでライセンスを反映してソフトウェアパッケージを有効化する」ページ 2-16

---



## 2.12 ネットワーク切替型冗長化 UGS のライセンス管理

ステーション単位でステーションを冗長化する場合、冗長化した各ステーションにライセンスを割り付けたあとでライセンスを配布し、反映する必要があります。

### 補足

既存のステーションのステーションプロパティを変更しても、ステーションを冗長化できません。既存のステーションを冗長化ステーションに変更するときは、既存のステーションを削除してから、新たに冗長化ステーションを定義してください。

### ■ ネットワーク切替型冗長化 UGS を定義する

ネットワーク切替型冗長化 UGS を定義する手順は、次のとおりです。

1. ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャを編集モードで起動してください。
2. メニューバーから、[ファイル] - [新規作成] - [ステーション] を選択してください。  
ステーション追加のダイアログボックスが表示されます。
3. [タイプ] タブの [ステーション種別] ドロップダウンリストでステーションを選択し、次の項目を指定してください。
  - ・ ドメイン番号
  - ・ ステーション番号

### 補足

任意のステーション別名とコメントを入力できます。

4. [TCP/IP] にタブを切り替え、Ethernet TCP/IP の設定セクションで 1 台目のコンピュータ名を入力してください。
5. [ステーション冗長化] のチェックボックスをオンにしてください。  
Peer Ethernet TCP/IP の設定セクションがアクティブになります。
6. Peer Ethernet TCP/IP の設定セクションで 2 台目のコンピュータ名を入力してください。
7. [OK] をクリックしてください。  
ネットワーク切替型冗長化 UGS がライセンスプロジェクトウィンドウに 2 列追加されます。指定内容にエラーがあった場合は、ステーションプロパティエラーダイアログが表示されます。エラー内容に従って指定しなおしてください。

### ■ ネットワーク切替型冗長化 UGS にライセンスを割り付ける

ネットワーク切替型冗長化 UGS にライセンスを割り付ける場合は、2 台のステーションの割り付け内容を同じにしてください。

### 参照

ライセンスの割り付けについては、以下を参照してください。

「■ ライセンスを割り付ける」 ページ 2-11

### ■ ネットワーク切替型冗長化 UGS にライセンスを配布する

ネットワーク切替型冗長化 UGS にライセンスを配布する場合は、2 台のステーションを同時に選択して、ライセンスを配布してください。片方だけにライセンスは配布できません。

**参照**

ネットワーク経由でライセンスを配布する方法については、以下を参照してください。

「■ ライセンス適用ステーションにライセンスをネットワーク経由で配布する」ページ 2-14

**■ ネットワーク切替型冗長化 UGS でライセンスを反映する**

ネットワーク切替型冗長化 UGS では、2 台のステーションそれぞれでライセンスを反映してください。

**参照**

ライセンス反映については、以下を参照してください。

「■ ライセンス適用ステーションでライセンスを反映してソフトウェアパッケージを有効化する」ページ 2-16

## 3.    **ライセンスプロジェクトのメンテナ       ス**

ここでは、ライセンスプロジェクトのメンテナンスをする方法について説明します。

## 3.1 ライセンス管理ステーションへの追加ライセンスの読み込み

追加購入したライセンスをライセンス管理ステーションに読み込む手順は、新規ライセンス読み込みの手順と同様です。

---

### 参照

ライセンスの読み込みについては、以下を参照してください。

「■ ライセンスを読み込む」 ページ 2-6

---

## 3.2 ライセンスの変更

ここでは、同一ライセンスプロジェクト内でライセンス割り付けを変更する方法、割り付け変更後のライセンス配布方法、およびライセンスの反映方法を説明します。  
必要になったソフトウェアパッケージのライセンスをステーションに割り付ける作業の流れを、次の図に示します。

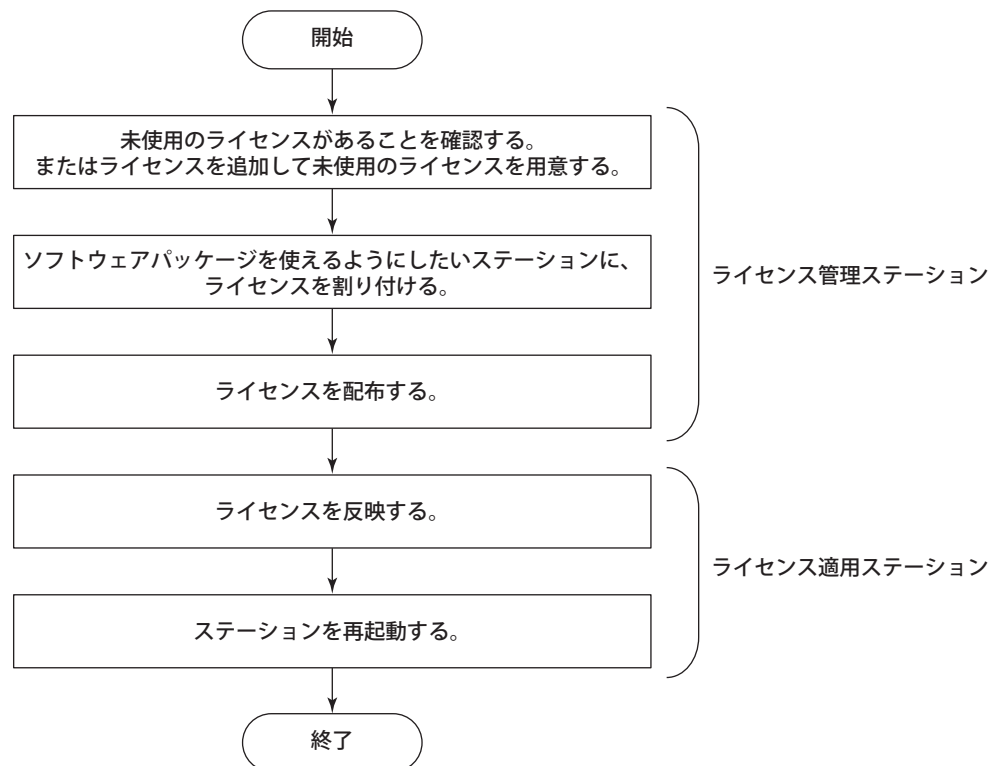


図 3.2-1 ソフトウェアパッケージのライセンスをステーションに割り付ける作業の流れ

不要になったソフトウェアパッケージのライセンスをステーションから削除する作業の流れを、次の図に示します。

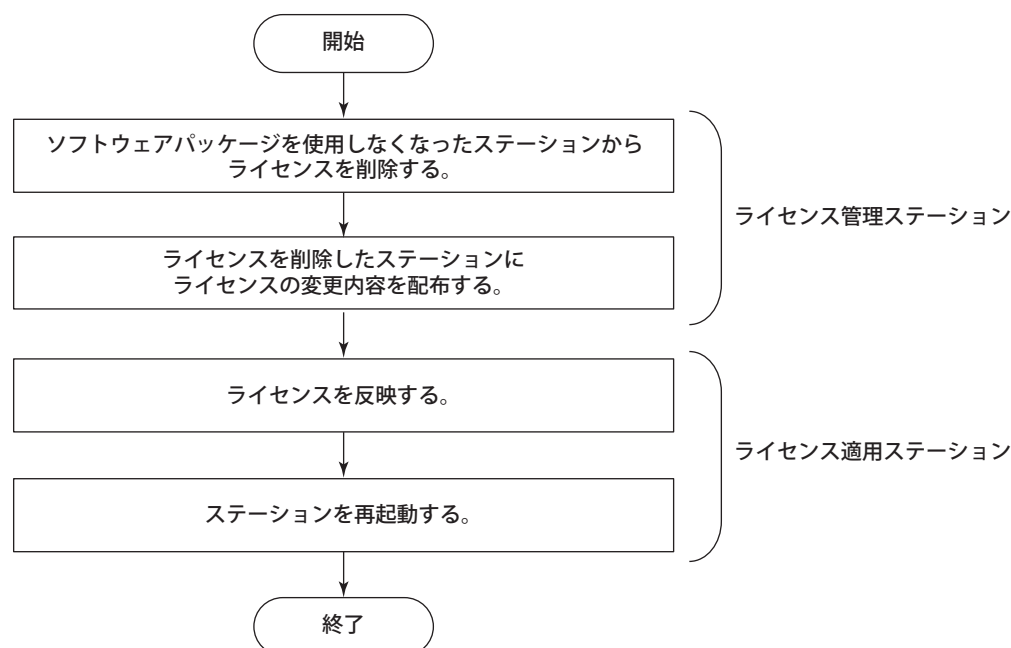


図 3.2-2 ソフトウェアパッケージのライセンスをステーションから削除する作業の流れ

あるステーションで使用しなくなったソフトウェアパッケージのライセンスを他のステーションへ移動する作業の流れを、次の図に示します。

例：

ステーションの HIS0163 から HIS0162 にライセンスを移動する

HIS0163: ソフトウェアパッケージのライセンスを削除するステーション

HIS0162: ソフトウェアパッケージのライセンスを割り付けるステーション

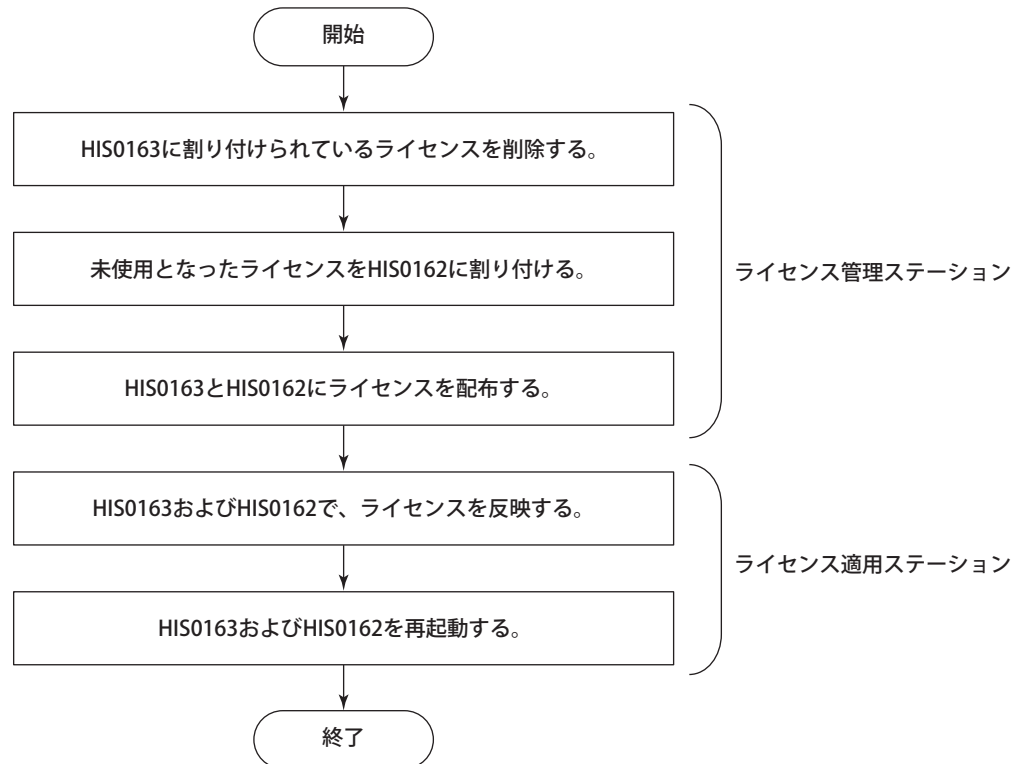


図 3.2-3 ソフトウェアパッケージのライセンスをステーション間で移動する作業の流れ

## 3.2.1 ライセンス割り付けの変更

ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャを使用して、ライセンス適用ステーションのライセンスを追加または削除できます。

### ■ ライセンス適用ステーションへライセンスを追加する

ライセンス適用ステーションへライセンスを追加する手順は、次のとおりです。

1. ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャを編集モードで起動してください。
2. ライセンス適用ステーションに追加したいソフトウェアパッケージのセルを選択し、1を入力してください。
  - ・ プロジェクト入出力ライセンスの場合、PJTCOM の割り付けエリアのセルに、ライセンスの数が追加されています。入力されているライセンスの数が、保有するプロジェクト入出力ライセンスのライセンス数と同じであることを確認してください。

セルの背景色は黄色になり、ライセンスが追加されたステーションのステータスは EDIT となります。
3. ライセンス管理ステーションからライセンスを追加したステーションにライセンスを配布してください。
4. ライセンス適用ステーションのライセンスマネージャを起動して、ライセンスの変更を反映してください。  
ソフトウェアパッケージが有効化されます。

#### 補足

- ・ 配布後のステータス：AckWait、配布後の背景色：黄色
- ・ 反映後のステータス：OK、反映後の背景色：なし

#### 参照

PJTCOM については、以下を参照してください。

「■ ステーション名およびコンピュータ名デフォルト値」 ページ 2-9

ライセンスの割り付けについては、以下を参照してください。

「■ ライセンスを割り付ける」 ページ 2-11

ライセンス配布については、以下を参照してください。

「3.2.2 変更されたライセンスの配布」 ページ 3-7

ライセンス反映については、以下を参照してください。

「3.2.3 変更されたライセンスの反映」 ページ 3-9

### ■ ライセンス適用ステーションからライセンスを削除する

ライセンス適用ステーションからライセンスを削除する手順は、次のとおりです。

1. ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャを編集モードで起動してください。
2. ライセンス適用ステーションの削除したいソフトウェアパッケージのセルを選択し、キーボード上の [Delete] キーを押してください。  
セルは空白で、その背景色は黄色になり、ライセンスが削除されたステーションのステータスは、EDIT となります。
3. ライセンス管理ステーションからライセンスを削除したステーションにライセンスを配布してください。

4. ライセンス適用ステーションのライセンスマネージャを起動して、ライセンスの変更を反映してください。  
ソフトウェアパッケージが無効化されます。

---

**補足**

- ・ 配布後のステータス：AckWait、配布後の背景色：黄色
  - ・ 反映後のステータス：OK、反映後の背景色：なし
- 

**参照**

ライセンスの割り付けについては、以下を参照してください。

「■ ライセンスを割り付ける」 ページ 2-11

ライセンスの配布については、以下を参照してください。

「3.2.2 変更されたライセンスの配布」 ページ 3-7

ライセンスの反映については、以下を参照してください。

「3.2.3 変更されたライセンスの反映」 ページ 3-9

---



### 3.2.2 変更されたライセンスの配布

ライセンス管理ステーションで割り付けを変更したライセンスは、ライセンス管理ステーションからライセンス適用ステーションへ配布する必要があります。

ステーションがネットワークに接続されている場合と接続されていない場合で、ライセンスの配布方法が異なります。

#### ■ 割り付けを変更したライセンスをネットワーク経由で配布する

割り付けを変更したライセンスをネットワーク経由で配布する手順は、新規配布の手順と同様です。

ライセンス配布時には、ライセンスの割り付けが変更（追加または削除）されてステータスが EDIT のステーションが、ライセンス配布ダイアログボックスに一覧表示されます。ライセンス配布ダイアログボックスのアクション欄には、ライセンス適用ステーションで配布されたライセンスを反映するときに必要なアクションが表示されます。変更するライセンス欄には、割り付けを変更したライセンスのパッケージ名が表示されます。

- ・ 追加したライセンス：「Add：＜パッケージ形名＞」
- ・ 削除したライセンス：「Del：＜パッケージ形名＞」

ライセンスを配布するステーションの「配布」欄のチェックボックスをオンにして「OK」をクリックしてください。

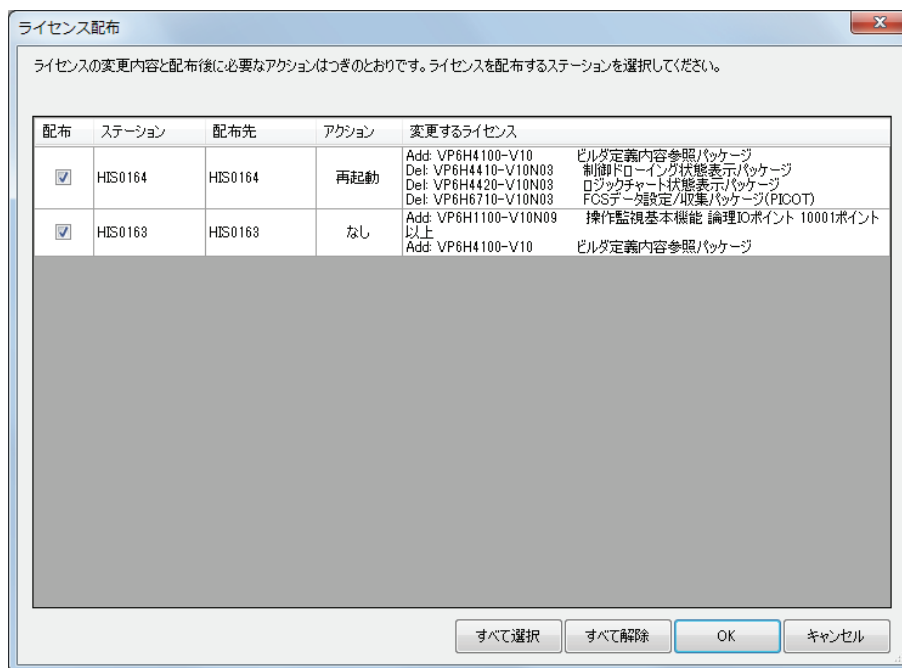


図 3.2.2-1 ライセンス配布のダイアログボックス

ライセンス適用ステーションへライセンスの配布が成功すると、ステーションのステータスが EDIT から AckWait になります。

#### 参照

ネットワーク経由でのライセンス適用ステーションへのライセンス配布については、以下を参照してください。

「■ ライセンス適用ステーションにライセンスをネットワーク経由で配布する」ページ 2-14

#### ■ 割り付けを変更したライセンスを外部記憶メディアを使用して配布する

割り付けを変更したライセンスをネットワークに接続していないステーションに配布する手順は、新規配布の手順と同様です。

---

**参照**

外部記憶メディアを使用したライセンス配布については、以下を参照してください。

「■ 外部記憶メディアを使用してライセンスを配布する」 ページ 2-17

---

### 3.2.3 変更されたライセンスの反映

ライセンスが変更されたソフトウェアパッケージを有効化／無効化する手順について説明します。ライセンス配布先の各ライセンス適用ステーションで、既存のライセンスファイルと新規のライセンスファイルを置き換えるライセンス反映作業をします。ライセンス反映後にステーションを再起動すると、変更されたライセンスに従い、ソフトウェアパッケージが有効化／無効化されます。

ステーションがネットワークに接続されている場合と接続されていない場合で、ライセンスの反映の方法が異なります。

#### ■ ネットワーク経由で配布されたライセンスの反映を実行する

ネットワーク経由でライセンスを受け取ったライセンス適用ステーションで、変更されたライセンスを反映する手順は、次のとおりです。

#### 重要

ライセンス適用ステーションでは、ユーザが起動したライセンス反映対象製品のアプリケーションとアンチウィルスソフトウェアを停止しておいてください。

1. ライセンス適用ステーションにメンテナンス権限のあるユーザでログオンしてください。
2. License Manager を起動してください。  
ライセンスマネージャウィンドウが表示され、ライセンスプロジェクトウィンドウに、自ステーションの適用状況が表示されます。サマリ情報エリアのステータスが AckWait で、反映待ちのライセンスがあることを確認してください。
3. メニューバーから、[ライセンス] - [ライセンス反映] を選択してください。  
変更されたライセンスと反映後に必要なアクションが、ライセンス反映ダイアログボックスに表示されます。

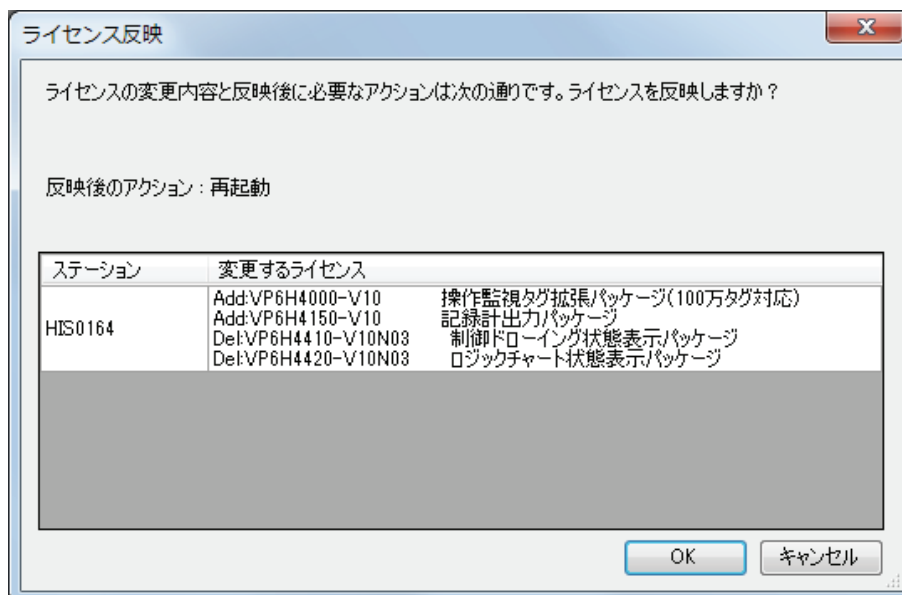


図 3.2.3-1 ライセンス反映ダイアログボックス

4. [OK] をクリックしてください。  
ライセンス反映対象製品のアプリケーションが停止していることを確認するダイアログボックスが表示されます。
5. アプリケーションが停止している場合は、[はい] をクリックしてください。  
実行中の場合は、[いいえ] をクリックしてください。反映作業が中止されます。

6. ライセンス反映後にステーションの再起動が必要な場合、ライセンス反映を続行するかを確認するダイアログボックスが表示されます。
7. [はい] をクリックしてください。ライセンス反映作業が開始されます。  
反映完了後、自動的にステーションが再起動し、変更されたライセンスに従い、ソフトウェアパッケージが有効化／無効化されます。

**補足**

ライセンス適用ステーションでライセンスを反映すると、ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャでは該当するステーションのステータスが、AckWait から OK になります。

**■ 割り付けを変更したライセンスを外部記憶メディアを使用して反映する**

外部記憶メディアを使用してライセンスを配布した場合、変更されたライセンスをライセンス適用ステーションで読み込み、ソフトウェアパッケージを有効化／無効化します。外部記憶メディアを使用してライセンスを有効にするときと同様の手順を実行してください。ライセンス反映後にステーションを再起動すると、変更されたライセンスに従い、ソフトウェアパッケージが有効化／無効化されます。

なお、前回配布していたライセンスを削除した場合、ライセンス適用ステーションでライセンス返還ファイルが作成されます。「ライセンス返還ファイル」とは、外部記憶メディアを使用して配布されたライセンスが削除され、未使用になったことを証明する情報が記憶されたファイルです。ライセンス返還ファイルの保存先を選択するダイアログボックスが表示されるので、保存先を指定してください。

**参照**

外部記憶メディアを使用したライセンスの反映については、以下を参照してください。

「■ 外部記憶メディアを使用してソフトウェアパッケージを有効化する」 ページ 2-18

### 3.2.4 外部記憶メディアを使用したライセンス返還

ライセンス適用ステーションで外部記憶メディアを使用してライセンス変更を反映した際に、前回配布していたライセンスが削除された場合は、ライセンス返還ファイルが作成されます。このライセンス返還ファイルをライセンス管理ステーションに読み込むと、未使用のライセンスとしてカウントされ、他のステーションに割り付けができるようになります。

外部記憶メディアを使用して削除した返還待ちのライセンスがある場合、ライセンス管理ステーションのステータスが RtnWait と表示されるので、すみやかにライセンス返還作業をしてください。

#### 参照

ステータス表示については、以下を参照してください。

「■ ライセンスプロジェクトウィンドウ」 ページ 1-18

### ■ 作成されるライセンス返還ファイルの形式

ライセンス返還ファイルの出力パスとファイル名は、次のとおりです。

[ユーザが指定したフォルダ] ¥ [ステーション識別子] ¥ [プロジェクト名].[ステーション名称].rlf  
例) F: ¥ HIS0164 ¥ MYPJT.HIS0164.rlf

### ■ 外部記憶メディアを使用してライセンス返還を実行する

ライセンス管理ステーションでライセンス返還ファイルを読み込む手順は、次のとおりです。

1. ライセンス適用ステーションでライセンス反映のときに作成されたライセンス返還ファイルを外部記憶メディアにコピーしてください。
2. 外部記憶メディアをライセンス管理ステーションのドライブに挿入してください。
3. ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャを編集モードで起動してください。
4. メニューバーから、[ライセンス] - [外部記憶メディア] - [ライセンス返還] を選択してください。  
フォルダ選択ダイアログボックスが表示されます。
5. 外部記憶メディアのライセンス返還ファイルを選択してください。
6. [OK] をクリックしてください。  
ライセンス返還ファイルが読み込まれると、該当するステーションのステータスが、RtnWait から OK に変化し、未使用のライセンス数が増加します。ライセンス返還が完了します。

### ● ライセンス返還ファイルを再び作成する

ライセンス返還ファイルを紛失してしまったときには、ライセンス返還ファイルを再び作成できます。手順は次のとおりです。

1. 前回ライセンス返還ファイルが作成されたライセンス適用ステーションのライセンスマネージャを起動してください。
2. メニューバーから、[ライセンス] - [外部記憶メディア] - [返還ファイル再出力] を選択してください。  
ライセンス返還ファイル保存場所を確認するダイアログボックスが表示されます。
3. 保存先フォルダを指定してください。
4. [OK] をクリックしてください。  
指定したフォルダに、ライセンス返還ファイルが保存されます。

## 3.3 ライセンス適用ステーションの追加と削除

ライセンス管理対象のステーションをライセンスプロジェクトに新たに追加したり、管理不要となったステーションをライセンスプロジェクトから削除できます。

また、ライセンス管理とは別の何らかの理由で、ライセンス配布先のステーションのプロパティが変更された場合、ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャで該当ステーションのプロパティを変更して、ライセンス管理対象から外れないように運用します。

### ■ ライセンス適用ステーションを追加する

ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャで、追加するステーションを「ライセンス適用ステーション」として定義します。ライセンス適用ステーションを追加する手順は、新規にステーションを追加する手順と同様です。

#### 参照

ライセンス適用ステーションの定義については、以下を参照してください。

「■ ライセンス適用ステーションを定義する」 ページ 2-7

### ■ 不要なライセンス適用ステーションを削除する

#### 重要

- ・ ライセンスプロジェクトからステーションを削除する場合は、該当ステーションに割り付けられたライセンスを削除してから行ってください。ステータスが EDIT の状態でも削除できます。ただし、FCS または SCS のステーションをライセンスプロジェクトから削除する場合は、割り付けを削除してから、ライセンス配布と反映を実行してステータスが OK になったことを確認してから実行してください。ステータスが EDIT や AckWait の状態では削除できません。
- ・ 稼働中のライセンス適用ステーションを削除すると、そのライセンス適用ステーションが持つライセンスは無効と判断されます。ライセンス適用ステーションを再起動すると、ライセンス管理対象から外れ、どのライセンスも割り付けられていない状態になります。ステーションの削除は慎重に行ってください。

ライセンス適用ステーションを削除する手順は、次のとおりです。

1. ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャを編集モードで起動してください。
2. 削除するステーションのライセンス割り付けを削除してください。
3. ライセンスプロジェクトウィンドウのステーション名をクリックしてください。
4. メニューバーから、[ファイル] - [削除] を選択してください。  
または、ステーション名を右クリックして [ステーション削除] を選択してください。  
ステーション削除のダイアログボックスが表示されます。
5. [はい] をクリックしてください。  
ライセンスプロジェクトウィンドウから削除したステーションの列が削除されます。
6. メニューバーから、[ファイル] - [保存] を選択してください。  
ステーションの削除が確定されます。

### ● 冗長化ステーションの削除

不要な冗長化ステーションを削除するときには、まず 2 台のステーションに割り付けられたライセンスを削除してください。

次にどちらか一方のステーション名を選択して削除してください。ライセンスプロジェクトから両方のステーションを同時に削除できます。

## ■ ステーションのプロパティを変更する

ステーションのプロパティを変更する手順は、次のとおりです。

1. ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャを編集モードで起動してください。
2. ライセンスプロジェクトウィンドウのステーション名をクリックしてください。
3. メニューバーから、[ファイル] – [プロパティ] を選択してください。  
またはステーション名を右クリックして [ステーションプロパティ] を選択してください。  
ステーションプロパティのダイアログボックスが表示されます。
4. 変更するプロパティのデータを入力し、[OK] をクリックしてください。  
ステーションのプロパティが変更され、ステータスが EDIT になります。

### 補足

[ステーション別名]、[コメント] だけを変更した場合は、ステーションのステータスは変更されません。

5. メニューバーから、[ファイル] – [保存] を選択してください。  
プロパティの変更が確定されます。

## ● ステーションのプロパティ項目

ステーションのプロパティ項目一覧は、次のとおりです。

### 補足

「参照のみ」の項目を変更したい場合は、そのステーションを削除し、新規にステーションを追加してください。

表 3.3-1 ステーションのプロパティ項目一覧

項目	属性
ステーション種別	参照のみ
ドメイン番号	参照のみ
ステーション番号	参照のみ
コメント	変更可能
ステーション別名	変更可能
コンピュータ名	変更可能
ステーション冗長化	参照のみ
Peer のコンピュータ名	変更可能

## 3.4 ライセンス適用ステーションへのライセンス再配布

マスタ配布機能を使うと、ライセンス管理ステーションからライセンス適用ステーションに最後に配布したライセンスを再配布できます。ライセンス適用ステーションが故障した場合に、ライセンス管理の対象製品がインストールされた交換用コンピュータにマスタライセンスを配布し、故障した適用ステーションのライセンス適用状況を再現できます。

### ■ マスタライセンス

マスタライセンスは、指定したステーションにユーザが最後に配布したライセンスです。マスタライセンスファイルは、マスタライセンスが格納されたファイルで、ステーションごとに内容が異なります。

マスタライセンスファイルのファイル形式は、ライセンスファイルのファイル形式と同じです。

#### 参照

ライセンスファイルについては、以下を参照してください。

「2.8 外部記憶メディアを使用したライセンス配布と反映」 ページ 2-17

### ■ 冗長化ステーションへのライセンス再配布

冗長化ステーションの一方をマスタ配布先に指定すると、最後に配布したライセンスを指定したステーションにだけ再配布できます。2 台のステーションに同時にライセンスを配布する必要はありません。



### 3.4.1 ネットワーク経由でのマスタライセンスの配布と反映

ここでは、ネットワークに接続されているステーションへのマスタライセンスの配布および反映について説明します。

#### ■ マスタライセンスをネットワーク経由で配布し、反映する

マスタライセンスをネットワーク経由で配布し、反映する手順は、次のとおりです。

1. ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャを編集モードで起動してください。
2. メニューバーから、[ライセンス] – [マスタ配布] を選択してください。  
過去にライセンス配布が完了したすべてのステーションがマスタ配布ダイアログボックスに表示されます。

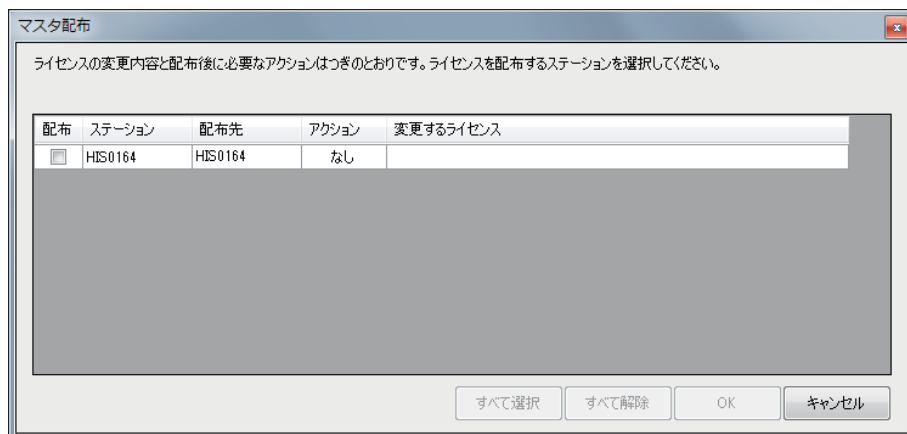


図 3.4.1-1 マスタ配布ダイアログボックス

3. 配布するステーションの [配布] 欄のチェックボックスをオンにしてください。
4. [OK] をクリックしてください。

ライセンス適用ステーションへマスタライセンスが配布されます。  
マスタライセンスの配布が完了すると、アクションの欄に [なし] と表示されたステーションでは、ライセンスが配布されたソフトウェアパッケージが利用可能な状態になります。

#### 参照

ライセンス内容の事前チェックについては、以下を参照してください。

「■ ライセンス適用ステーションにライセンスをネットワーク経由で配布する」 ページ 2-14

ネットワーク経由のライセンス反映については、以下を参照してください。

「■ ネットワーク経由で配布されたライセンスの反映を実行する」 ページ 3-9

### 3.4.2 外部記憶メディアを使用したマスタライセンスの配布と反映

ここでは、ネットワークに接続されていないステーションへの外部記憶メディアを使用したマスタライセンスの配布および反映について説明します。

#### ■ ネットワークに接続されていないステーションに外部記憶メディアを使用してマスタライセンスを配布し、反映する

ネットワークに接続されていないステーションに外部記憶メディアを使用してマスタライセンスを配布し、反映する手順は、次のとおりです。

1. ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャを編集モードで起動してください。
2. メニューバーから、[ライセンス] – [外部記憶メディア] – [マスタ配布] を選択してください。  
過去にライセンス配布を完了したすべてのステーションが、ダイアログボックスに表示されます。
3. ライセンスを配布したいステーションの [配布] 欄のチェックボックスをオンにしてください。
4. [OK] をクリックしてください。  
フォルダを指定するダイアログボックスが表示されます。
5. マスタライセンスを保存するフォルダを指定してください。
6. [OK] をクリックしてください。  
指定したフォルダに、マスタライセンスを配布するステーションごとのフォルダが作成され、ライセンスファイルが保存されます。
7. ライセンスファイルを外部記憶メディアに格納してください。

**重要** 外部記憶メディアにライセンスを保存する場合、ウィルス感染を防止するため、未使用の CD-R の利用を推奨します。

ライセンス適用ステーションで外部記憶メディアに格納したライセンスファイルを読み込んで、マスタライセンスを反映してください。

**参照** 外部記憶メディアを使用したマスタライセンスの反映については、以下を参照してください。

「■ 外部記憶メディアを使用してソフトウェアパッケージを有効化する」 ページ 2-18

## 3.5 ソフトウェアパッケージ容量の拡張

FCS や SCS で取り扱う入出力点数を拡張する場合は、プロジェクト入出力ライセンスを追加で手配してください。

操作監視機能、エンジニアリング基本機能で取り扱う入出力点数などを拡張する場合は、増設用ライセンスを手配してください。

### 補足

たとえば、CENTUM VP R5 で操作監視機能とビルダ基本機能の対象制御ステーション数を拡張するときには、増設用ライセンスを手配してください。

増設用ライセンスは、ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャでライセンスを読み込み、新設用ライセンスと増設用ライセンスをマージしてからライセンス適用ステーションにライセンスを配布します。増設用ライセンスは単独では配布できません。新設用ライセンスと増設用ライセンスをマージすると、容量を拡張した新設用ライセンスになり、配布できるようになります。

ここでは、新設用ライセンスと増設用ライセンスをマージして、ソフトウェアパッケージ容量を拡張する手順について説明します。

### 重要

一度マージしたライセンスを分割することはできません。マージの操作は慎重に行ってください。

### ■ ソフトウェアパッケージの容量を拡張する

ソフトウェアパッケージの容量を拡張する手順は、次のとおりです。

1. ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャを編集モードで起動してください。
2. ライセンス管理ステーションへ増設用ライセンスを読み込んでください。
3. 新設用ライセンスと増設用ライセンスを同じステーションに割り付けてください。
4. メニューバーから、[ライセンス] - [増設用ライセンスマージ] を選択してください。

増設用のパッケージを確認するダイアログボックスが表示されます。

5. [はい] をクリックしてください。  
新設用ライセンスと増設用ライセンスがマージされます。マージされたライセンスはパッケージ形名で確認できます。

## マージ前

Project ID	X00000000	コンポーネント	PJTCOM	HIS0164
Edit : 2	Edit(NG) : 0	コメント		
AckWait : 0	RtnWait : 0	ドメイン		1
Expired : 0	DueToExpire : 0	ステータス ▼ ステーション		64
パッケージ形名	パッケージ名	有効期限 ▼	数量	未使用
--- [PJTCOM] ---	---	---	---	---
VP6F3100-V10	プロジェクト入出力ライセンス		100	0
--- [HIS] ---	---	---	---	---
VP6H1100-E10N59	操作監視基本機能 論理IOポイント...		1	0
VP6H1100-V10N05	操作監視基本機能 論理IOポイント...		3	2
VP6H1120-V10	ソリッドスタイルコンソールパッケージ		3	3

## マージ後

Project ID	X00000000	コンポーネント	PJTCOM	HIS0164
Edit : 2	Edit(NG) : 0	コメント		
AckWait : 0	RtnWait : 0	ドメイン		1
Expired : 0	DueToExpire : 0	ステータス ▼ ステーション		64
パッケージ形名	パッケージ名	有効期限 ▼	数量	未使用
--- [PJTCOM] ---	---	---	---	---
VP6F3100-V10	プロジェクト入出力ライセンス		100	0
--- [HIS] ---	---	---	---	---
VP6H1100-V10N05	操作監視基本機能 論理IOポイント...		2	2
VP6H1100-V10N09	操作監視基本機能 論理IOポイント...		1	0
VP6H1120-V10	ソリッドスタイルコンソールパッケージ		3	3

VP6H1100-V10N05とVP6H1100-E10N59をマージしてVP6H1100-V10N09にする

図 3.5-1 新設用ライセンスと増設用ライセンスのマージ

- 容量を拡張したライセンスをライセンス適用ステーションに配布し、ライセンス適用ステーションで反映してください。

## 補足

マージ可能なライセンスが複数存在する場合、1回のマージ操作で1組だけをマージできます。

## 参照

ライセンスの読み込みについては、以下を参照してください。

「■ ライセンスを読み込む」 ページ 2-6

ライセンスの割り付けについては、以下を参照してください。

「■ ライセンスを割り付ける」 ページ 2-11

ネットワーク経由でのライセンス配布については、以下を参照してください。

「■ ライセンス適用ステーションにライセンスをネットワーク経由で配布する」 ページ 2-14

ネットワーク経由でのライセンス反映については、以下を参照してください。

「■ ネットワーク経由で配布されたライセンスの反映を実行する」 ページ 3-9

## 3.6 ライセンスプロジェクトのバックアップとリストア

ライセンス管理ステーションが故障した場合に、バックアップしたライセンスプロジェクトを他のステーション、またはライセンスマネージャが単独でインストールされたコンピュータにリストアし、新規にライセンス管理ステーションを設定できます。ここでは、ライセンスプロジェクトを手動でバックアップする手順とライセンスプロジェクトをリストアする手順を説明します。

### ■ ライセンスプロジェクトを手動でバックアップする

ライセンスプロジェクトを手動でバックアップする手順は、次のとおりです。

1. ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャを編集モードで起動してください。
2. メニューバーから、[ツール] – [バックアップ] を選択してください。  
ライセンスプロジェクトがバックアップされます。

#### 参照

ライセンスプロジェクトのバックアップ先の指定については、以下を参照してください。

「■ バックアップ先フォルダを指定する」 ページ 2-4

### ■ ライセンスプロジェクトを別のライセンス管理ステーションにリストアする

購入したライセンスキーファイルが格納されているライセンスメディアを用意してください。

ライセンスプロジェクトを別のライセンス管理ステーションにリストアする手順は、次のとおりです。

1. ライセンスプロジェクトをリストアするステーションのライセンスマネージャを編集モードで起動してください。
2. メニューバーから、[ツール] – [リストア] を選択してください。  
フォルダを選択するダイアログボックスが表示されます。
3. 移動元のライセンスプロジェクトのバックアップフォルダを選択し、[OK] をクリックしてください。

#### 補足

すでに同一のライセンスプロジェクト名が存在する場合、リストア処理は中止されます。

リストアに必要なライセンスキーファイルの一覧を示すライセンスプロジェクトのリストア画面が表示されます。

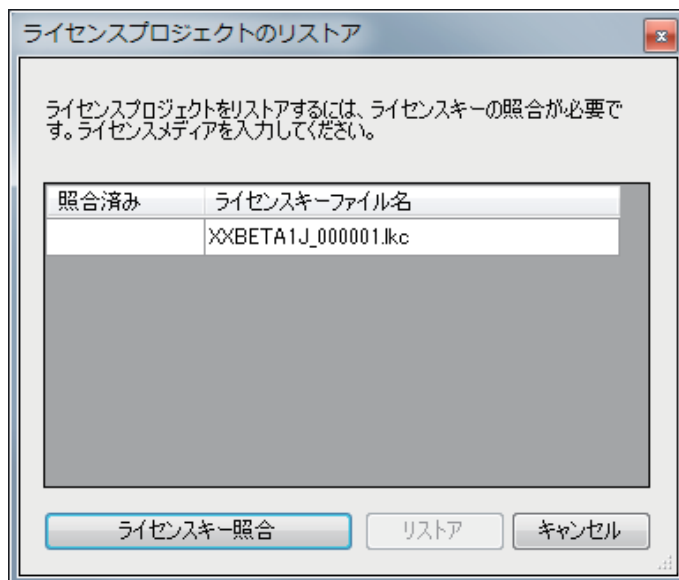


図 3.6-1 ライセンスプロジェクトのリストア画面

4. 照合するライセンスキーファイルが格納されているライセンスメディアをドライブに挿入し、[ライセンスキー照合] ボタンをクリックしてください。  
フォルダを選択するダイアログボックスが表示されます。
5. 外部記憶メディアのドライブを選択し、[OK] をクリックしてください。  
ライセンスプロジェクトのリストア画面の、選択したライセンスキーファイルに対応する [照合済み] の欄のチェックボックスにチェックマークが入ります。
6. 複数のライセンスメディアを入れ替えて、ライセンスプロジェクトのリストア画面に表示されているすべてのライセンスキーファイルに対してライセンスキー照合操作を実行してください。
7. [照合済み] のすべてのチェックボックスがチェックされたら、ライセンスプロジェクトのリストア画面の [リストア] をクリックしてください。  
ライセンスプロジェクトのリストアが完了し、ライセンスマネージャに新規のライセンスプロジェクトウィンドウが表示されます。

**補足**

新しいライセンス管理ステーションへのライセンスプロジェクトのリストアが終了した後に、マスタ配布機能を使ってネットワーク経由でライセンス 適用ステーションにライセンスを配布してください。ライセンスの適用状況を監視できるようになります。

## 3.7 ライセンスの別プロジェクトへの移動

ここでは、異なるライセンスプロジェクト間で、ライセンスを移動する方法について説明します。

たとえば、ひとつのライセンスプロジェクトでオプションソフトウェアパッケージが不要になった場合、そのソフトウェアパッケージのライセンスを別のライセンスプロジェクトに移動し、そのライセンスプロジェクトで管理する HIS や SENG に付与できます。

移動用ライセンスキーファイルをライセンスマネージャーに読み込んだ後、移動元のライセンスプロジェクトからライセンスを削除して、他のライセンスプロジェクトへライセンスを移動できるようにします。

その後、移動先のライセンスプロジェクト向けにライセンスキーファイルを作成して、移動先でライセンスを読み込む必要があります。

### ■ 移動用ライセンスキーファイル

ライセンスプロジェクト間でライセンスを移動するには、移動用ライセンスキーファイルが格納されたライセンスメディアが別途必要となりますので、当社にお問い合わせください。移動用ライセンスキーファイルには、次の情報が含まれます。

- ・ 移動元と移動先のプロジェクト ID
- ・ 移動するライセンスのパッケージ形名とバージョン情報
- ・ 移動するライセンス数

### ■ ライセンスプロジェクト間のライセンス移動の流れ

ライセンスを別のプロジェクトに移動するイメージを次に示します。

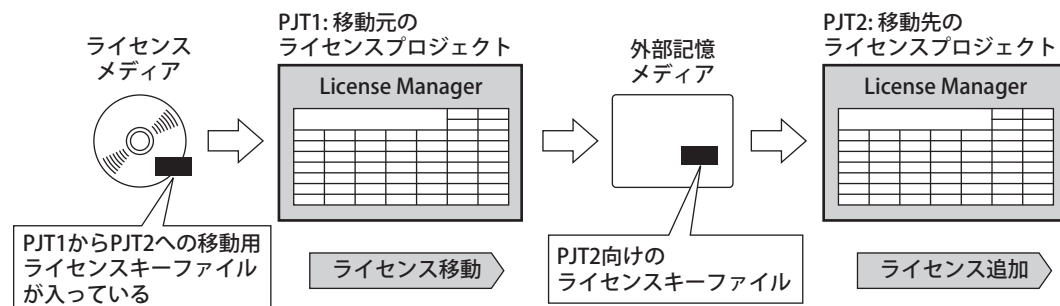


図 3.7-1 ライセンスを別のライセンスプロジェクトに移動する

ライセンスを別のライセンスプロジェクトに移動する場合のワークフローを次に示します。

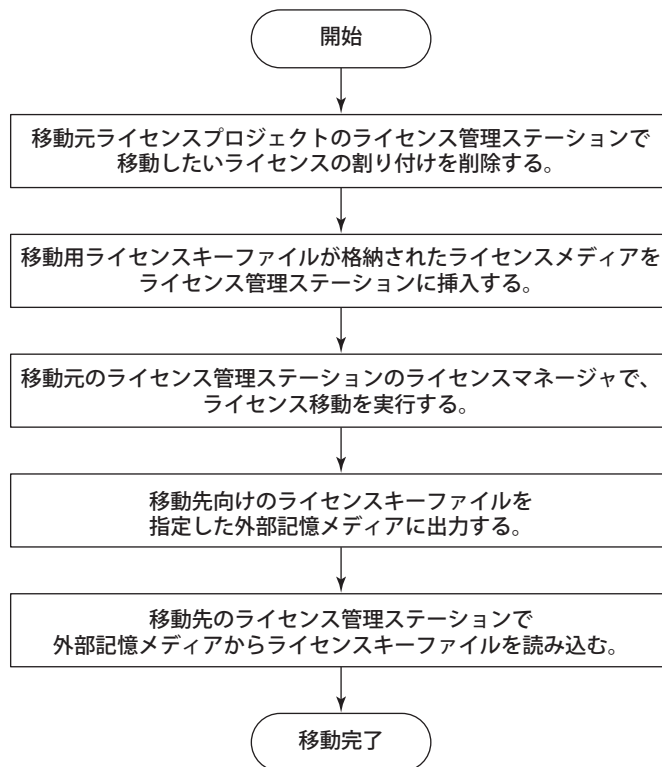


図 3.7-2 ライセンス移動のワークフロー

## ■ ライセンスを別のライセンスプロジェクトに移動する

ライセンスを別のライセンスプロジェクトに移動する手順は、次のとおりです。

1. 移動元のライセンス管理ステーションのライセンスマネージャを編集モードで起動してください。
2. ライセンス割り付けの変更と同様の操作で、移動したいライセンスの割り付けを削除し、どのステーションにも割り付けられていない空きライセンスを確保してください。
3. ライセンス管理ステーションのメディアドライブにライセンス移動用ライセンスキーファイルが格納されたライセンスメディアをセットしてください。
4. メニューバーから、[ライセンス] - [ライセンス移動] を選択してください。フォルダを選択するダイアログボックスが表示されます。
5. 移動用ライセンスキーファイルを選択して、[開く] をクリックしてください。ライセンス移動を確認するダイアログボックスが表示されます。

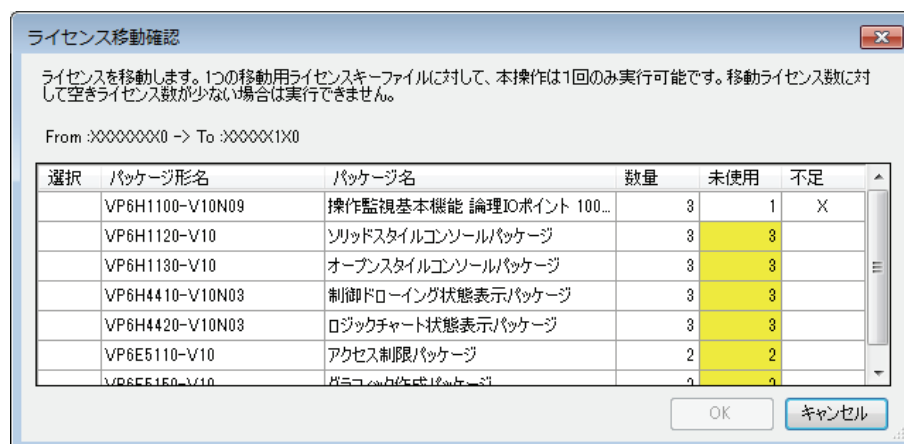


図 3.7-3 ライセンス移動を確認するダイアログボックス



6. 移動するライセンスのパッケージ形名と数量が表示されていることを確認し、[OK] をクリックしてください。  
移動先用ライセンスキーファイルを保存する場所を指定するダイアログボックスが表示されます。

#### 補足

- ・ 移動対象のライセンス数より空きライセンス数の方が少ない場合、[OK] をクリックすることはできません。この場合、対象となるライセンスの不足欄にチェックが入ります。
- ・ 移動対象のライセンス数より空きライセンス数が多い場合、移動するライセンスを選択することができます。

7. 移動先用ライセンスキーファイルを保存する場所を指定してください。
8. [OK] をクリックしてください。  
指定したフォルダに移動先用ライセンスキーファイルが作成されます。
9. 作成されたライセンスキーファイルを外部記憶メディアに格納してください。
10. 移動先のライセンス管理ステーションでライセンスマネージャを起動してください。
11. ライセンスの追加と同様の手順でライセンスを読み込んでください。  
異なるプロジェクト間でのライセンス移動が完了します。

#### 重要

ライセンスプロジェクトをリストアするとき、次のライセンスキーファイルが必要となりますので、次のライセンスメディアおよびライセンスキーファイルを保管願います。

- ・ 移動用ライセンスキーファイルが入ったライセンスメディア
- ・ 移動元のライセンス管理ステーションで作成された、移動先用ライセンスキーファイル

ライセンスキーファイルのファイル名は、次のとおりです。

- ・ 移動用ライセンスキーファイル：<SrcProjectID>\_<SerialID>.lkc
- ・ 移動先用ライセンスキーファイル：<ProjectID>\_<SerialID>.lkc

ProjectID：移動先のプロジェクト ID

SrcProjectID：移動元のプロジェクト ID

SerialID：ライセンスキー発行時に設定される ID

#### 参照

ライセンスの読み込みについては、以下を参照してください。

「■ ライセンスを読み込む」 ページ 2-6

ライセンス割り付けの変更については、以下を参照してください。

「3.2 ライセンスの変更」 ページ 3-3

## 3.8 ライセンス適用ステーションのコンピュータ名変更

すでにライセンスが割り付けられたライセンス適用ステーションのコンピュータ名を変更するには、該当ステーションをライセンスプロジェクトから削除し、コンピュータ名を変更したあとに再度ライセンスプロジェクトに追加する作業をしてください。

### ■ ライセンス適用ステーションのコンピュータ名を変更する

ライセンス適用ステーションのコンピュータ名を変更するには、次の手順に従ってください。

1. ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャを、編集モードで起動してください。
2. コンピュータ名を変更するライセンス適用ステーションのライセンス割り付けを、削除してください。
3. ライセンスの配布と反映をしてください。
4. ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャで、ライセンス適用ステーションのステータスが OK になったことを確認してから、コンピュータ名を変更するライセンス適用ステーションを、ライセンスプロジェクトから削除してください。
5. コンピュータ名を変更してください。
6. 新しいコンピュータ名でライセンス適用ステーションをライセンスプロジェクトに追加してください。
7. ライセンス適用ステーションにライセンスを割り付け、ライセンスの配布をしてください。
8. ライセンス適用ステーションを再起動してください。

#### 参照

ライセンス適用ステーションの追加と削除については、以下を参照してください。

「3.3 ライセンス適用ステーションの追加と削除」 ページ 3-12

## 3.9 ライセンス割り付け作業を補助する機能

ライセンスマネージャでは、ライセンス割り付け作業を補助するために次の機能が使えます。

- パッケージリストのインポートとエクスポート  
汎用のテキスト編集ツールを使って、ライセンスプロジェクトを構成するステーションの情報とライセンス割り付けの情報をパッケージリストとして作成し、ライセンスプロジェクトにインポートできます。またライセンスプロジェクトからパッケージリストをエクスポートできます。
- ライセンスプロジェクトウィンドウ上で文字列を検索
- ライセンスプロジェクトウィンドウ上でソフトウェアパッケージの折りたたみ表示
- ライセンスプロジェクトウィンドウに表示される内容のフィルタリング
- ライセンスプロジェクトからソフトウェアパッケージのライセンスを削除
- ライセンス適用状況のファイル作成

### 3.9.1 パッケージリストのインポートとエクスポート

パッケージリストとは、プロジェクトを構成するステーションにかかわる情報と、各ステーションへのライセンス割り付け情報が記述された CSV 形式のファイルです。

ライセンス管理ステーションにパッケージリストをインポートし、ステーション構成およびライセンス割り付けを定義できます。

また、ライセンス管理ステーションからパッケージリストをエクスポートできます。

#### ■ パッケージリストのファイルフォーマット

CSV 形式のパッケージリストを表計算ソフトウェアで表示した例を次に示します。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	@ProjectID	XXXXXXXX0						
2	@Product	CENTUM VP						
3	@StationType					PJTCOM	HIS/ENG	HIS/ENG
4	@StationName					PJTCOM	HIS0164	HIS0163
5	@ComputerName						HIS0164	HIS0163
6	@StationAlias							
7	@StationComment							
8	#	PackageType	Paid	Expiry	Ver.			
9	@Package	VP6F3100-V10	P		R6	100		
10	@Package	VP6H1100-V10N09	P		R6		1	1
11	@Package	VP6H4100-V10	P		R6		1	1
12	@Package	VP6H4150-V10	P		R6		1	1
13	@Package	VP6H4450-V10	P		R6		1	1
14	@Package	VP6H6510-V10	P		R6		1	1
15	@Package	VP6H6530-V10	P		R6		1	1

図 3.9.1-1 CSV 形式のパッケージリスト

パッケージリストに必要なライセンス管理情報の識別子と書式、インポート時の指定条件例を次に示します。

表 3.9.1-1 ライセンス管理情報の識別子と書式、インポート時の指定条件

指定項目	識別子と書式	内容	インポート時の指定の必要性
プロジェクト ID	@ProjectID, <プロジェクト ID>	ライセンスプロジェクトのプロジェクト ID	必須
製品名	@Product, <製品名>	ライセンスプロジェクトの製品名	必須
ステーション種別	@StationType, <ステーション種別 1>, <ステーション種別 2>, ..., <ステーション種別 N>	ライセンスプロジェクト内の全ステーションの種別	必須
ステーション名	@StationName, <ステーション名 1>, <ステーション名 2>, ..., <ステーション名 N>	ライセンスプロジェクト内の全ステーションのステーション名	必須 (*1)
コンピュータ名	@ComputerName, <コンピュータ名 1>, <コンピュータ名 2>, ..., <コンピュータ名 N>	ライセンスプロジェクト内の全ステーションのコンピュータ名	必須 (*2)
ステーション別名	@StationAlias, <ステーション別名 1>, <ステーション別名 2>, ..., <ステーション別名 N>	ライセンスプロジェクト内の全ステーションのステーション別名	任意
ステーションコメント	@StationComment, <ステーションコメント 1>, <ステーションコメント 2>, ..., <ステーションコメント N>	ライセンスプロジェクト内の全ステーションのコメント	任意
パッケージ情報	@Package, <MS コード>, <有償フラグ>, <期間>, <バージョン>, <ステーション 1 の割り付け数>, <ステーション 2 の割り付け数>	パッケージのライセンス情報と割り付け情報	必須
コメント行	#から始まる行		任意

\*1: 制御バスに接続しないステーションの場合は不要です。

\*2: FCS と SCS では不要です。

表 3.9.1-2 識別子書式の値と説明

指定項目	値	説明
<ステーション種別>	ステーション追加で指定可能な種別と同じ 例) : HIS, FCS, GSGW, SIOS, UGS, UGS2	ステーションの種別
<ステーション名>	ステーション名と同じ ドメイン番号とステーション番号がない場合は、空白とする。 インポート時は、ステーション名の文字列から、ドメイン番号、ステーション番号、ステーション冗長化の設定を読み取る。 例) HIS0164, FCS0101, BCUU0163(UGS)(Peer)	ステーション名
<コンピュータ名>	ステーションプロパティで指定した値 ステーション名の末尾が (Peer) の場合、Peer ステーションに対する設定値	ステーションのプロパティ
<ステーション別名> <ステーションコメント>	ステーションプロパティで指定した値 ステーション名の末尾が (Peer) の場合、値は無視される。	ステーションのプロパティ
<有償フラグ>	デフォルトで、有償 [P] を指定 インポートしたパッケージリストの有償フラグが空白の場合は有償とみなす。	
<期限>	期限なし:空白 期限あり:YYYY/MM/DD YYYY 西暦 MM 月 DD 日 例) 2015/12/22	ライセンスの有効期限
<バージョン>	R<バージョン番号> 例) R6	ライセンスのバージョン番号
<割り付け数>	ライセンス割り付け数 エクスポート時に割り付けがない場合、エクスポートしたパッケージリストは空白となる。 インポート時に割り付け数が 0 または空白の場合は、割り付け数を 0 とする。	ステーションごとのライセンスの割り付け数

パッケージリストの許容容量を次に示します。

表 3.9.1-3 パッケージリストの許容容量

指定項目	許容容量
最大ステーション数	256
最大パッケージ行数	200

## ■ パッケージリストをインポートする

パッケージリストをインポートする手順は、次のとおりです。

1. ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャを編集モードで起動してください。
2. メニューバーから、[ファイル] - [外部ファイル] - [パッケージリストインポート] を選択してください。  
ファイルを選択するダイアログボックスが表示されます。
3. インポートするパッケージリストを選択してください。
4. [開く] をクリックしてください。

ライセンス割り付けの整合性チェックとパッケージリストのチェックが自動的に実行され、インポートしたパッケージリストの情報がライセンスマネージャの画面に更新されます。

5. メニューバーから、[ファイル] – [保存] を選択してください。

インポートしたパッケージリストが保存されます。

エラーが検出された場合および警告情報が検出された場合は、メッセージ表示エリアに表示されます。その場合は、原因を取り除いてください。

## ● インポート処理内容

パッケージリストのインポートを実行した際の処理内容を次に示します。

- ・ ステーション情報  
元のライセンスプロジェクトにないステーションがインポートしたパッケージリストに存在した場合は、ステーションと割り付け情報を追加します。  
元のライセンスプロジェクトにあるステーションがインポートしたパッケージリストに存在した場合は、そのプロパティを上書きします。  
ステーションのプロパティは、パッケージリストに含まれる情報で、<コンピュータ名>、<ステーション別名>および<ステーションコメント>からなります。  
元のライセンスプロジェクトにあるステーションがインポートしたパッケージリストに存在しない場合、インポート実行時には、元のライセンスプロジェクトの情報は保持されます。
- ・ 割り付け情報  
元のライセンスプロジェクトにあるステーションに対してインポートしたパッケージリストで割り付け情報を指定している場合は、その割り付け情報を上書きします。  
元のライセンスプロジェクトにあるステーションに対してインポートしたパッケージリストで割り付け情報を指定していない場合は、元のライセンスプロジェクトの割り付け情報が保持されます。  
元のライセンスプロジェクトにあるステーションが冗長化ステーションのとき、パッケージリストで両方のステーションの割り付け情報を指定してください。
- ・ ライセンスを保有するソフトウェアパッケージ情報（パッケージ形名、バージョン）  
元のライセンスプロジェクトにないソフトウェアパッケージ情報がインポートしたパッケージリストに存在した場合は、保有するライセンスの数を0として、行を追加します。

## ● インポート時のチェック項目

パッケージリストのインポート時にライセンスマネージャは、「パッケージリストのチェック」と「ライセンス割り付けの整合性チェック」を自動的に行います。エラーが検出された場合、メッセージ表示エリアにエラー内容が表示され、インポートは中止されます。

パッケージリストのチェック項目は、次のとおりです。

表 3.9.1-4 パッケージリストのチェック項目

チェック項目	チェック内容
ファイル形式	CSV 形式かどうかのチェック
入力項目	次の必須項目が入力されているかのチェック プロジェクト ID 製品名 ステーション種別 ステーション名 コンピュータ名

次に続く

表 3.9.1-4 パッケージリストのチェック項目（前から続く）

チェック項目	チェック内容
製品名	ライセンスプロジェクトの製品名と同じかのチェック
プロジェクト ID	ライセンスプロジェクトのプロジェクト ID と同じかのチェック
割り付け可能パッケージ	ステーション種別に対して割り付け不可能なライセンスが割り付けられていないかのチェック
冗長化ステーションの設定	1 台目のステーションと 2 台目のステーションの割り付け内容が異なっていないかのチェック

## ■ パッケージリストをエクスポートする

パッケージリストをエクスポートする手順は、次のとおりです。

1. ライセンスマネージャを起動してください。
2. メニューバーから、[ファイル] – [外部ファイル] – [パッケージリストエクスポート] を選択してください。  
保存を確認するダイアログボックスが表示されます。
3. パッケージリストのエクスポート先フォルダ、ファイル名を指定してください。
4. [保存] をクリックしてください。  
ライセンス情報のパッケージリストが、指定したフォルダに指定したファイル名で出力されます。

## 3.9.2 ライセンスプロジェクトウィンドウ上の文字の検索

ライセンスプロジェクトウィンドウ上の文字列を検索できます。

### ■ 検索を実行する

ライセンスマネージャの検索機能を使用する手順は、次のとおりです。

1. 文字検索をしたいライセンスプロジェクトを開いてください。
2. ライセンスマネージャのメニューバーから、[編集] – [検索] を選択してください。  
検索テキストボックスが表示されます。
3. 検索テキストボックスに検索文字列を入力し、[次を検索] をクリックしてください。  
ライセンスプロジェクトウィンドウ左上から検索を開始します。右方向に1行検索すると、次の行に移ります。  
検索に該当した箇所には、カーソルが移動します。  
該当する箇所がなかった場合はメッセージが表示されます。



### 3.9.3 ライセンスプロジェクトの折りたたみ表示

ライセンスプロジェクトのパッケージ情報エリアにソフトウェアパッケージがステーション種別ごとに一覧表示されます。

ライセンスプロジェクトの行を展開したり、折りたたんだりすることによってパッケージ形名などを表示／非表示にできます。

#### ■ 折りたたみ表示を実行する

ライセンスプロジェクトウィンドウが表示された状態で、パッケージ形名の左にある画面の折りたたみ [+] [-] ボタンをクリックします。

該当するパッケージの種類のみを表示するように行が折りたたみ表示されます。

折りたたみ [+] [-] ボタンをクリックするたびに、通常表示と折りたたみ表示が切り替わります。

### 3.9.4 ライセンスプロジェクトウィンドウに表示される内容のフィルタリング

ライセンスプロジェクトウィンドウで選択した条件に合致したステーションの列およびソフトウェアパッケージの行のみをフィルタリング表示できます。

選択できる条件は次のとおりです。

- ・ ステーション種別によるフィルタリング
- ・ ドメイン番号によるフィルタリング
- ・ ステーションのステータスによるフィルタリング
- ・ ライセンスの有償/無償、期限有無、バージョンによるフィルタリング

フィルタリング条件は複数指定でき、それぞれ独立して指定できます。複数の条件でフィルタリングした場合、すべての条件に合致した列と行のみを表示します。

たとえば、[FCS] でフィルタリングした場合、FCS 以外のステーション種別はすべて折りたたまれ、FCS にかかわるパッケージだけが表示されます。

#### ■ フィルタリングを実行する

フィルタリングを実行する手順は、次のとおりです。

1. ライセンスプロジェクトウィンドウで、フィルタリング対象項目のフィルタリングボタンをクリックしてください。
2. 表示されるプルダウンメニューで、条件選択肢を選択してください。  
選択した条件に合致したステーションの列およびライセンスの行のみがフィルタリング表示されます。

### 3.9.5 ライセンスプロジェクトからソフトウェアパッケージのライセンスを削除する

次の条件を同時に満たすソフトウェアパッケージのライセンスは、ライセンスプロジェクトから削除できます。

- どのステーションにもライセンスの割り付けがないソフトウェアパッケージ
- ライセンスの保有数が0(\*1)または期限が切れて使用できないソフトウェアパッケージ

\*1: ライセンスの保有数が0のソフトウェアパッケージを含むパッケージリストをインポートしてライセンスプロジェクトを作成した場合、保有数が0のソフトウェアパッケージの行が追加されます。

#### 補足

ライセンスの更新の作業後に、不要になったソフトウェアパッケージのライセンスはライセンスプロジェクトから削除してください。

#### 参照

パッケージリストのインポートについては、以下を参照してください。

「3.9.1 パッケージリストのインポートとエクスポート」 ページ 3-26

## ■ ソフトウェアパッケージのライセンスを削除する

ソフトウェアパッケージのライセンスを削除する手順を次に示します。

### 重要

削除したソフトウェアパッケージのライセンスは、復元することができません。ソフトウェアパッケージのライセンスの削除は慎重に実行してください。

1. ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャを編集モードで起動してください。
2. ライセンスプロジェクトウィンドウで、削除するソフトウェアパッケージの行を選択してください。  
このとき、選択できるのは1つのソフトウェアパッケージだけです。
3. メニューバーから、[ライセンス] - [ライセンス削除] を選択してください。  
ライセンス削除のダイアログボックスが表示されます。
4. [はい] をクリックしてください。  
ソフトウェアパッケージのライセンスが削除されます。

### 3.9.6 ライセンス適用状況のファイル作成

ライセンスマネージャでは、ライセンス適用状況をテキスト形式のファイルとして作成できます。ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

1. ライセンス管理ステーションの場合は、ライセンスマネージャのメニューバーから、[表示] をクリックし、次のどちらかの出力モードを選択してください。

- ・ 編集モード
- ・ 監視モード

ライセンス適用ステーションの場合は、モードの選択は不要です。

2. メニューバーから、[ツール] – [レポート出力] を選択してください。
3. ファイル選択ダイアログボックスで、次の項目を指定してください。
  - ・ ファイルの保存先フォルダ
  - ・ ファイル名
4. [保存] をクリックしてください。  
指定したフォルダにテキストファイルが保存されます。

## ■ ライセンス適用状況のファイル構成

ライセンス適用状況のファイル構成と各項目を次に示します。

### ● Header

Header 部に保存される項目を次に示します。

表 3.9.6-1 Header 項目一覧

項目	説明
License Manager Report [ステーション名] ([モード名])	[ステーション名] ([モード名]) ファイル出力を実行したステーション名とそのライセンスプロジェクトのモード名 例) HIS0164 (監視モード)
Date	ファイル出力を実行したローカル日付

### ● Project Information

Project Information 部には、ライセンスプロジェクトの情報が保存されます。Project Information 部に保存される項目を次に示します。

表 3.9.6-2 Project Information 項目一覧

項目	説明
Product	製品名
Project ID No	プロジェクト ID 番号
Project name	ライセンスプロジェクト名
Comment	ライセンスプロジェクトのコメント
License Admin	ライセンス管理フラグ 1：ライセンス管理ステーション 0：ライセンス適用ステーション
Back up folder	ライセンスプロジェクトのバックアップ先フォルダ

ライセンスプロジェクトのモードによって保存される項目が異なります。各モードごとに保存される項目を次に示します。

- ・ 編集モードの場合

表 3.9.6-3 編集モード時に保存される項目一覧

項目	説明
Edit	編集中のステータス数
Edit(NG)	整合性チェックでエラーとなったステーション数
AckWait	ライセンス反映待ちのステーション数
RtnWait	ライセンス返還待ちのステーション数
Expired	ライセンス期限切れのステーション数
DueToExpire	ライセンス期限切れまで 30 日以内のステーション数

- ・ 監視モードの場合

表 3.9.6-4 監視モード時に保存される項目一覧

項目	説明
Error	ライセンス違反のステーション数
Expired	ライセンス期限切れのステーション数
DueToExpire	ライセンス期限切れまで 30 日以内のステーション数
Unknown	状態を確認できないステーション数
AckWait	ライセンス反映待ちのステーション数
RtnWait	ライセンス返還待ちのステーション数

- ・ 適用ステーションモードの場合

表 3.9.6-5 適用ステーションモード時に保存される項目一覧

項目	説明
Error	ライセンス違反のステーション数
Expired	ライセンス期限切れのステーション数
DueToExpire	ライセンス期限切れまで 30 日以内のステーション数
AckWait	ライセンス反映待ちのステーション数

## ● Package List

Package List 部には、ライセンスパッケージに関する情報が保存されます。Package List 部に保存される項目を次に示します。

Package List の項目は、パッケージごとに 1 から通し番号が付けられて 1 行ずつ保存されます。

表 3.9.6-6 Package List 項目一覧

項目	説明
No	ライセンスごとに、1 からの通し番号が自動出力
PackageType	パッケージ形名
InternalPackage	CENTUM VP R6 のパッケージ形名に対応する CENTUM VP R5 のパッケージ形名、または ProSafe-RS R4 のパッケージ形名に対応する ProSafe-RS R3 のパッケージ形名
PackageName	パッケージ名
Paid	有償/無償を表示 有償：p 無償：F
Expiry	有効期限 期限付き：期限日時 期限なし：-

次に続く

表 3.9.6-6 Package List 項目一覧（前から続く）

項目	説明
Ver.	バージョン
Qty	ライセンス数量
Unused	未使用のライセンス数

## ● Station Information、Station Information-Package

Station Information 部には、ステーションに関する情報が保存され、Station Information-Package 部には、ステーションに割り付けたライセンスに関する情報が保存されます。Station Information 部に保存される項目を次に示します。

表 3.9.6-7 Station Information 部に保存される項目

項目	説明
StationType	ステーション種別
Domain,Station	[ドメイン番号][ステーション番号] 例) 1,63 ない場合は空文字
StnName	ステーション名
Alias	ステーション別名
Comment	コメント
Computer	コンピュータ名
Status	ライセンスウィンドウで表示中のステータス(*1)

\*1: 編集モードと監視モードでは、文字列が異なります。

Station Information-Package 部に保存される項目を次に示します。

表 3.9.6-8 Station Information-Package 部に保存される項目

項目	説明
No	ライセンスごとに、1 からの通し番号を自動保存
PackageType	パッケージ形名
InternalPackage	CENTUM VP R6 のパッケージ形名に対応する CENTUM VP R5 のパッケージ形名、または ProSafe-RS R4 のパッケージ形名に対応する ProSafe-RS R3 の パッケージ形名
PackageName	パッケージ名
Paid	有償/無償を表示 有償：p 無償：F
Expiry	有効期限 期限付き：期限日時 期限なし：-
Ver.	バージョン
Assign	表示中のステーションに割り付けたライセンス数(*1)

\*1: 編集モードと監視モードでは、数が異なる場合があります。

## 4. CENTUM VP R5 から R6、ProSafe-RS R3 から R4 へのライセンスの更新

ここでは、CENTUM VP R5 から R6、ProSafe-RS R3 から R4 へのライセンスの更新方法を説明します。ライセンスの更新を開始する前に、更新したライセンスを配布したいコンピュータに CENTUM VP R6、ProSafe-RS R4 のソフトウェアパッケージをインストールしてください。

CENTUM VP と ProSafe-RS はお互いにライセンスの更新による影響を受けません。

## 4.1 ライセンスの更新のプロセス

ライセンスプロジェクト内の全ステーションに割り付けられているライセンスを更新する基本ワークフローについて説明します。

一部の HIS に対してライセンスを更新する場合については、別項目として説明します。ライセンスの更新の流れを、次の図に示します。

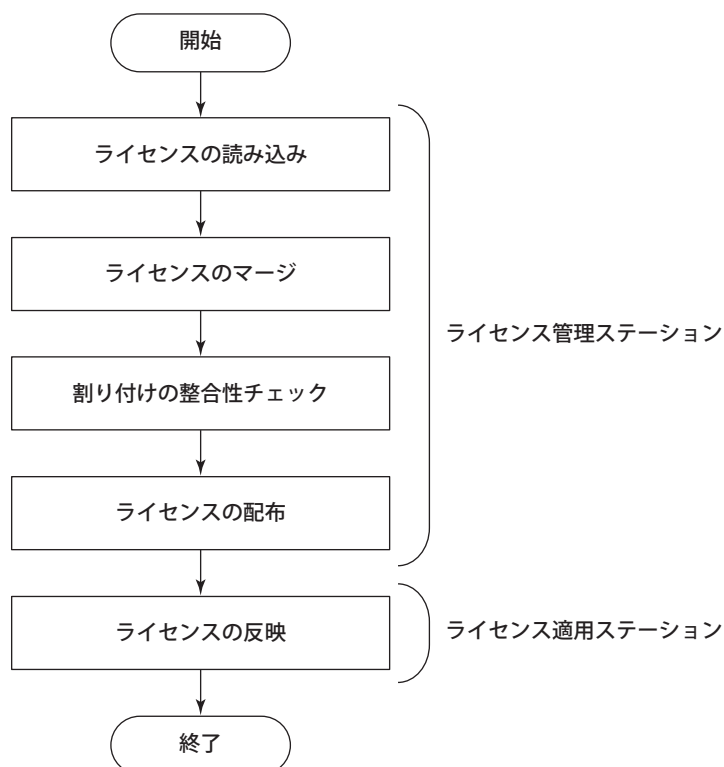


図 4.1-1 ライセンスの更新の流れ

### 参照

一部の HIS に対してライセンスを更新する場合については、以下を参照してください。

「4.2 一部の HIS に対してライセンスを更新する場合」 ページ 4-5

## ■ ライセンスの読み込み

CENTUM VP R6 または ProSafe-RS R4 にバージョンアップされたライセンス管理ステーションで、ライセンスメディアからライセンスを更新するためのライセンスキーファイルを読み込んでください。

ライセンスキーファイルをライセンス管理ステーションに読み込む手順は、新規ライセンス読み込みの手順と同様です。

ライセンスマネージャのパッケージ形名に、次の行が追加されます。以降の説明では、この追加された行をバージョンアップ用ライセンスといいます。

<更新前のパッケージ形名> => <更新後のパッケージ形名>

例：LHS1100-V10/N0099 => VP6H1100-V10N09

### 重要

ライセンスプロジェクトをリストアするときには必要ですので、ライセンスを更新したあとも次のライセンスメディアを引き続き保管してください。

- ・ ライセンスを更新する前のライセンスキーファイルが入ったライセンスメディア
- ・ ライセンスを更新するためのライセンスキーファイルが入ったライセンスメディア



**参照**

ライセンスの読み込みについては、以下を参照してください。

「■ ライセンスを読み込む」 ページ 2-6

**■ ライセンスのマージ**

バージョンアップ用ライセンスは単独では配布できませんので、ライセンスのマージが必要です。

**重要**

一度、マージしたライセンスは分割できません。マージの操作は慎重に行ってください。

ライセンスをマージするときは、次の手順に従ってください。

1. ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャを編集モードで起動してください。
2. 更新前のライセンスが割り付いている全ステーションに、バージョンアップ用ライセンスを割り付けてください。バージョンアップ用ライセンスの割り付けは、ライセンスの割り付けと同様です。
3. メニューバーから、[ライセンス] - [バージョンアップ用ライセンスマージ] を選択してください。  
パッケージを確認するダイアログボックスが表示されます。
4. [はい] をクリックしてください。  
更新前のライセンスとバージョンアップ用ライセンスがマージされます。マージされたライセンスはパッケージ形名で確認できます。

ライセンスマネージャのイメージ図

パッケージ形名	Ver.	数量	HIS1	HIS2	HIS3
LHS1100-V10/N0099	R5	3	1	1	1
LHS1100-V10/N0099 => VP6H1100-V10N09	R6	3			

ライセンスを割り付けた後の  
ライセンスマネージャのイメージ図

パッケージ形名	Ver.	数量	HIS1	HIS2	HIS3
LHS1100-V10/N0099	R5	3	1	1	1
LHS1100-V10/N0099 => VP6H1100-V10N09	R6	3	1	1	1

マージ後のライセンスマネージャのイメージ図

パッケージ形名	Ver.	数量	HIS1	HIS2	HIS3
VP6H1100-V10N09	R6	3	1	1	1

図 4.1-2 ライセンスを更新するためのマージの操作

**補足**

マージ可能なライセンスが複数存在する場合、1 回のマージ操作で 1 組だけをマージできます。

**参照**

ライセンスの割り付けについては、以下を参照してください。

「■ ライセンスを割り付ける」 ページ 2-11

**■ 割り付けの整合性チェック**

更新したライセンスの割り付けの整合性をチェックしてください。

更新したライセンスの割り付けの整合性チェックは、ライセンス割り付けの整合性チェックと同様です。

**重要** 1 台のライセンス適用ステーションに、異なったバージョンのライセンスを割り付けしないでください。異なったバージョンのライセンスを割り付けて、ライセンスの割り付けの整合性をチェックした場合は、ライセンスマネージャのメッセージ表示エリアにエラーが表示されます。エラーが表示された場合は、割り付けを修正してください。

**参照** ライセンス割り付けの整合性チェックについては、以下を参照してください。  
「2.6 ライセンス割り付けの整合性チェック」 ページ 2-13

## ■ ライセンスの配布

更新したライセンスをライセンス適用ステーションへ配布してください。  
更新したライセンスの配布は、新規ライセンスの配布手順と同様です。

**参照** ネットワーク経由でのライセンス適用ステーションへのライセンス配布については、以下を参照してください。  
「■ ライセンス適用ステーションにライセンスをネットワーク経由で配布する」 ページ 2-14  
外部記憶メディアを使用したライセンス配布については、以下を参照してください。  
「■ 外部記憶メディアを使用してライセンスを配布する」 ページ 2-17

## ■ ライセンスの反映

ライセンス適用ステーションで、更新したライセンスを反映してください。  
更新したライセンスの反映は、新規ライセンスの反映手順と同様です。

**参照** ライセンス反映については、以下を参照してください。  
「■ ライセンス適用ステーションでライセンスを反映してソフトウェアパッケージを有効化する」 ページ 2-16  
外部記憶メディアを使用したライセンスの反映については、以下を参照してください。  
「■ 外部記憶メディアを使用してソフトウェアパッケージを有効化する」 ページ 2-18

## 4.2 一部の HIS に対してライセンスを更新する場合

ここでは、一部の HIS に対してライセンスを更新するときの手順を説明します。

たとえば、ライセンスプロジェクトに CENTUM VP R5 と R6 の HIS を混在させる場合、CENTUM VP R6 へバージョンアップしたステーション数に応じて、ライセンスを R6 に更新します。そして、CENTUM VP R6 にバージョンアップした HIS へ更新したライセンスを配布し、反映します。

### 重要

CENTUM VP では、1 つのライセンスプロジェクトに、HIS 以外のステーションの R5 と R6 を混在できません。ProSafe-RS では、1 つのライセンスプロジェクトに R3 と R4 の SENG を混在できません。

### ■ 一部の HIS に対するライセンスの更新

一部の HIS に対してライセンスを更新する手順は、ライセンスの更新のプロセスで説明している手順と同様です。ただし、バージョンアップ用ライセンスは、ライセンスを更新するステーションに割り付けてください。

一部の HIS に対してライセンスを更新する手順のイメージを次に示します。

ライセンスマネージャのイメージ図

パッケージ形名	Ver.	数量	HIS1	HIS2	HIS3
LHS1100-V10/N0099	R5	3	1	1	1
LHS1100-V10/N0099 => VP6H1100-V10N09	R6	2			

ライセンスを割り付けた後の  
ライセンスマネージャのイメージ図

パッケージ形名	Ver.	数量	HIS1	HIS2	HIS3
LHS1100-V10/N0099	R5	3	1	1	1
LHS1100-V10/N0099 => VP6H1100-V10N09	R6	2	1	1	

マージ後のライセンスマネージャのイメージ図

パッケージ形名	Ver.	数量	HIS1	HIS2	HIS3
LHS1100-V10/N0099	R5	1			1
VP6H1100-V10N09	R6	2	1	1	

図 4.2-1 ライセンスの一部の更新

一部の HIS に対してライセンスを更新するとバージョンアップ用ライセンスの本数分、ライセンスが更新されます。

一部の HIS に対してライセンスを更新したあとは、ライセンスの更新のプロセスに従って、割り付けの整合性チェックから作業を続けてください。

### 参照

ライセンスの更新のプロセスについては、以下を参照してください。

「4.1 ライセンスの更新のプロセス」 ページ 4-2

バージョンアップ用ライセンスについては、以下を参照してください。

「■ ライセンスの読み込み」 ページ 4-2



## 5. アップグレードライセンスを操作する

アップグレードライセンスは製品のアップグレードに必要なライセンスです。アップグレードライセンスの有効期限前に発行された製品メディアをインストールできます。次の操作は、ソフトウェアライセンスに対する操作と異なります。

- ・ 追加
- ・ 配布と反映
- ・ 削除
- ・ 移動

アップグレードライセンスは、別ライセンスプロジェクトへ移動できません。

### ■ アップグレードライセンスを追加する

新規にアップグレードライセンスを読み込むときや、アップグレードライセンスの有効期限を延長するときに実施します。

#### 補足

アップグレードライセンスの有効期限よりあとに発行されたソフトウェアをインストールする場合は、まず、新しい有効期限を持つアップグレードライセンスを追加してください。有効期限が延長されます。

#### 参照

アップグレードライセンスの追加については、以下を参照してください。

「■ ライセンスを読み込む」 ページ 2-6

### ■ アップグレードライセンスを配布、反映する

次の製品をレビジョンアップするとき、アップグレードライセンスの配布と反映は、新しいレビジョンのソフトウェアをインストールする前に実施してください。

- ・ CENTUM VP R6.04 以降
- ・ ProSafe-RS R4.03 以降

#### 補足

- ・ 配布したライセンスがアップグレードライセンスだけで配布がネットワーク経由のときは、自動的に反映されます。
- ・ アップグレードライセンスは、有効期限が過ぎていても配布できます。

#### 参照

ネットワーク経由でのライセンス配布と反映については、以下を参照してください。

「2.7 ネットワーク経由でのライセンス配布と反映」 ページ 2-14

外部記憶メディアを使用したライセンス配布と反映については、以下を参照してください。

「2.8 外部記憶メディアを使用したライセンス配布と反映」 ページ 2-17

### ■ ライセンスプロジェクトからアップグレードライセンスを削除する

どのステーションにもライセンスの割り付けがないアップグレードライセンスは、ライセンスプロジェクトから削除できます。

削除の手順は、ソフトウェアパッケージのライセンス削除と同じです。

#### 参照

ソフトウェアパッケージのライセンス削除については、以下を参照してください。

「3.9.5 ライセンスプロジェクトからソフトウェアパッケージのライセンスを削除する」 ページ 3-33



# Appendix 1. ライセンス割り付けの整合性 チェックでチェックされる項 目

ライセンスごと、またはステーションごとにチェックする項目のチェック内容を、次の表に示します。

表 Appendix 1-1 ライセンスごとにチェックする項目

チェック項目	チェック内容
割り付け数超過	各ステーションに割り付けたライセンスの合計数が、ライセンスプロジェクトで保有するライセンス数以内かどうかのチェック
PJTCOM の定義	プロジェクト入出力ライセンスがある場合、PJTCOM が定義されているかチェック
プロジェクト入出力ライセンスの割り付け数	PJTCOM に割り付いているプロジェクト入出力ライセンスのライセンス数が、保有するプロジェクト入出力ライセンスのライセンス数と異なっていないかのチェック

表 Appendix 1-2 ステーションごとにチェックする項目

チェック項目	チェック内容
ステーションプロパティ	ステーションプロパティの下記項目に誤りがないかのチェック 入力範囲 設定区分 ステーション識別条件
依存関係	複数のソフトウェアパッケージを一緒に割り付ける必要があるソフトウェアパッケージで、必要なパッケージ形名がすべて割り付けられているかどうかのチェック
排他関係	1つのステーションに排他関係にあるパッケージ形名を割り付けていないかのチェック
割り付け可能パッケージ	ステーション種別に対して、割り付け不可能なパッケージ形名がないかのチェック
期限切れ割り付け	期限切れライセンスを割り付けていないかのチェック
マージ用ライセンス	増設用ライセンス、バージョンアップ用ライセンス、置き換えライセンスを単独で割り付けていないかのチェック
割り付け制限超過	割り付けライセンス数が1ステーションに割り付けできる本数を超過していないかのチェック
冗長化ステーション	1台目のステーションと2台目のステーションの割り付け内容が異なっていないかのチェック
バージョン番号一致	1つのステーションに異なるバージョンのライセンスを割り付けていないかのチェック

## 参照

PJTCOM については、以下を参照してください。

「■ ステーション名およびコンピュータ名デフォルト値」 ページ 2-9

増設用ライセンスについては、以下を参照してください。

「3.5 ソフトウェアパッケージ容量の拡張」 ページ 3-17

バージョンアップ用ライセンスについては、以下を参照してください。

「■ ライセンスの読み込み」 ページ 4-2

置き換えライセンスについては、以下を参照してください。

「Appendix 4. CENTUM VP R5 ソフトウェアパッケージのライセンスの変更」 ページ App.4-1





# Appendix 2. ライセンス適用ステーションでのライセンス適用状況の表示

## ■ ライセンスマネージャでのライセンス適用状況の表示

ライセンス適用ステーションのライセンスマネージャを起動すると、自ステーションのライセンスプロジェクトウィンドウが表示されます。

サマリ情報エリアには自ステーションのステータスが表示されます。表示項目と対応方法は、次のとおりです。

表 Appendix 2-1 ステータスと対応方法







ステータス	説明	対応方法
Error	ライセンス違反のステーション数	ライセンス違反の内容を確認してください。
Expired	ライセンス期限切れのステーション数	期限の切れたライセンスを確認してください。
DueToExpire	ライセンス期限切れまで 30 日以内のステーション数	期限切れまで 30 日以内のライセンスを確認してください。
AckWait	ライセンス反映待ちのステーション数	配布されたライセンスを反映してください。

## ■ タスクトレイでのライセンス適用状況表示

自ステーションでのライセンス適用状況がタスクトレイにアイコンで表示されます。

タスクトレイに表示されるアイコンと対応方法は、次のとおりです。

表 Appendix 2-2 アイコンと対応方法

アイコン	説明	対応方法
	ライセンスが正常に適用されている状態（監視モードでは OK の状態）	—
	ライセンスに異常がある状態（監視モードでは Error、Expired、NoLicense のいずれかの状態）	ライセンス違反の内容を確認してください。
	ライセンス期限切れまで 30 日以内の状態（監視モードでは DueToExpire の状態）	期限切れまで 30 日以内のライセンスを確認してください。
	ライセンスが配布され、反映待ちがある状態。現状では、ライセンスが正常に適用されている状態（監視モードでは OK の状態）	配布したライセンスを反映してください。
	ライセンスが配布され、反映待ちがある状態。現状では、ライセンスに異常がある状態（監視モードでは Error、Expired、NoLicense のいずれかの状態）	配布したライセンスを反映してください。
	ライセンスが配布され、反映待ちがある状態。ライセンス期限切れまで 30 日以内の状態（監視モードでは DueToExpire の状態）	配布したライセンスを反映してください。

## ■ HIS システムメッセージバナーでのライセンス 適用状況の表示

HIS のシステムメッセージバナーのシステム 状態アイコン表示領域には、自ステーションのライセンス適用状況が表示されます。ライセンス違反や警告、反映待ちがあるときにアイコンが表示されます。

システムメッセージバナーのライセンス 適用状況の表示例を示します。

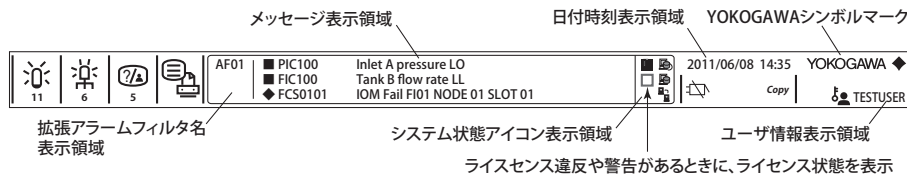


図 Appendix 2-1 HIS のシステムメッセージバナーの表示例

システム 状態アイコン表示領域に表示されるアイコンと対応方法は、次のとおりです。

表 Appendix 2-3 アイコンと対応方法

アイコン	説明	対応方法
表示なし	ライセンスが正常に適用されている状態	—
	ライセンスに異常がある状態	ライセンス違反の内容を確認してください。
	ライセンス期限切れまで 30 日以内の状態	期限切れまで 30 日以内のライセンスを確認してください。
	ライセンスが配布され、反映待ちがある状態。現状では、ライセンスが正常に適用されている状態	配布したライセンスを反映してください。
	ライセンスが配布され、反映待ちがある状態。現状では、ライセンスに異常がある状態	配布したライセンスを反映してください。
	ライセンスが配布され、反映待ちがある状態。ライセンス期限切れまで 30 日以内の状態	配布したライセンスを反映してください。

# Appendix 3. メッセージ

メッセージのフォーマットは次のとおりです。

ステーション名 (STNddss) メッセージ

例) STN0164 License is not Accepted

ステーションに表示されるメッセージと対応方法は、次のとおりです。

表 Appendix 3-1 メッセージと対応方法

メッセージ	説明	対応方法
STNddss License is not Accepted	配布されたライセンスを反映していません。	ライセンスマネージャを起動し、ライセンスを反映してください。
STNddss Cannot Restart. License Expired (VP6H1100, VP6H1120)	ライセンスの使用期限が過ぎました。ステーションを再起動すると該当パッケージは動作しません。	ライセンスを更新するか、割り付けを削除してください。
STNddss Cannot Restart from 2015/12/22. License will Expire (VP6H1100, VP6H1120)	2015/12/22 以降にステーションを再起動すると該当パッケージは動作しません。ライセンス期限切れの 30 日前から表示されます。	ライセンスを更新するか、割り付けを削除してください。
STNddss License Error (License is Invalid)	ライセンス情報が正しくありません。	ライセンスを再配布してください。
STNddss License Error (Different from License Manager)	自ステーションのライセンス情報と、ライセンス管理ステーションで管理しているライセンス情報が一致しません。	ライセンスを再配布してください。
STNddss License Error (Duplication with STNxxxx)	STNddss と同一のライセンスを複数のステーション (例では、STNxxxx) で重複して使用しています。	ライセンスを再配布してください。
STNddss License Error (ProjectID1 and ProjectID2(STNxxxx) are detected)	同一システム内のステーション(*1)で、異なるプロジェクト ID のライセンスが割り付けられていることを検出しました。たとえば、STNddss には ProjectID1 のライセンスが、STNxxxx には ProjectID2 のライセンスが割り付けられています。 ProjectID1: 自ステーションのライセンスプロジェクトのプロジェクト ID ProjectID2: 他ステーションのライセンスプロジェクトのプロジェクト ID STNxxxx: 自ステーションとは異なるプロジェクト ID を使用しているステーション名 (またはコンピュータ名)	プロジェクト内のライセンスが、同一ライセンスプロジェクトのライセンスかどうか確認してください。

\*1: システムビューで定義したプロジェクトのコンピュータベースの全ステーションとライセンスプロジェクトで定義したコンピュータベースの全ステーション



# Appendix 4. CENTUM VP R5 ソフトウェア パッケージのライセンスの変 更

ここでは、CENTUM VP R5 のソフトウェアパッケージのライセンスを変更する方法を説明します。たとえば、LHM1101 操作監視基本機能（CENTUM VP Small 用）のライセンスを LHS1100 操作監視基本機能のライセンスに置き換える場合、LHM1101 のライセンスを LHS1100 のライセンスに変更します。ライセンスを変更する基本ワークフローは、ライセンスを更新する基本ワークフローと同様です。ただし、ライセンス適用ステーションでライセンスを反映したあとに、ステーションを再起動してください。

CENTUM VP R6 のライセンス管理ステーションで、ライセンスメディアからライセンスを変更するためのライセンスキーファイルを読み込みます。ライセンスマネージャのパッケージ形名に、次の行が追加されます。以降の説明では、この追加された行を置き換えライセンスとします。

<変更前のパッケージ形名> => <変更後のパッケージ形名>

例：LHM1101-V10/N0064 => LHS1100-V10/N0099

変更前のライセンスと置き換えライセンスをマージして、ライセンスを変更します。そして、変更したライセンスをライセンス適用ステーションへ配布し、反映します。

## 重要

ライセンスプロジェクトをリストアするときに必要ですので、ライセンスを変更したあとにも次のライセンスメディアを引き続き保管してください。

- ・ ライセンスを変更する前のライセンスキーファイルが入ったライセンスメディア
- ・ ライセンスを変更するためのライセンスキーファイルが入ったライセンスメディア

## 参照

ライセンスの更新の基本ワークフローについては、以下を参照してください。

「4.1 ライセンスの更新のプロセス」 ページ 4-2

## ■ ライセンスの変更

変更前のライセンスと置き換えライセンスをマージして、ライセンスを変更するときは、次の手順に従ってください。

## 重要

一度、マージしたライセンスは分割できません。マージの操作は慎重に行ってください。

1. CENTUM VP R6 のライセンス管理ステーションで、ライセンスメディアからライセンスを変更するためのライセンスキーファイルを読み込んでください。ライセンスキーファイルをライセンス管理ステーションに読み込む手順は、新規ライセンス読み込みの手順と同様です。
2. ライセンス管理ステーションのライセンスマネージャを編集モードで起動してください。
3. ライセンスを変更するステーションに、置き換えライセンスを割り付けてください。置き換えライセンスの割り付けは、ライセンスの割り付けと同様です。
4. メニューバーから、[ライセンス] - [バージョンアップ用ライセンスマージ] を選択してください。

パッケージを確認するダイアログボックスが表示されます。

5. [はい] をクリックしてください。

変更前のライセンスと置き換えライセンスがマージされます。マージされたライセンスはパッケージ形名で確認できます。

ライセンスマネージャのイメージ図

パッケージ形名	Ver.	数量	HIS1	HIS2	HIS3
LHM1101-V10/N0064	R5	3	1	1	1
LHM1101-V10/N0064 => LHS1100-V10/N0099	R5	2			

ライセンスを割り付けた後の  
ライセンスマネージャのイメージ図

HIS1とHIS2にライセンスの割り付け

パッケージ形名	Ver.	数量	HIS1	HIS2	HIS3
LHM1101-V10/N0064	R5	3	1	1	1
LHM1101-V10/N0064 => LHS1100-V10/N0099	R5	2	1	1	

マージ後のライセンスマネージャのイメージ図

ライセンスのマージ

パッケージ形名	Ver.	数量	HIS1	HIS2	HIS3
LHM1101-V10/N0064	R5	1			1
LHS1100-V10/N0099	R5	2	1	1	

#### 図 Appendix 4-1 ライセンスの変更

6. 変更したライセンスの割り付けの整合性をチェックしてください。変更したライセンスの割り付けの整合性チェックは、ライセンス割り付けの整合性チェックと同様です。
7. 変更したライセンスをライセンス適用ステーションへ配布し、反映してください。

#### 参照

ライセンスの読み込みについては、以下を参照してください。

「■ ライセンスを読み込む」 ページ 2-6

ライセンスの割り付けについては、以下を参照してください。

「■ ライセンスを割り付ける」 ページ 2-11

ライセンス割り付けの整合性チェックについては、以下を参照してください。

「2.6 ライセンス割り付けの整合性チェック」 ページ 2-13

変更したライセンスの配布については、以下を参照してください。

「3.2.2 変更されたライセンスの配布」 ページ 3-7

変更したライセンスの反映については、以下を参照してください。

「3.2.3 変更されたライセンスの反映」 ページ 3-9

## ライセンス管理

IM 33J01C20-01JA 8 版

## 索引

## イ

インポート.....3-27

## エ

エクスポート.....3-29

## カ

外部記憶メディア.....2-17,2-18,3-10,3-11,3-16

監視モード.....1-16,2-19

## コ

コンピュータ名デフォルト値.....2-9

## シ

システムアラームメッセージ.....2-19

冗長化ステーション.....2-23

新設用ライセンス.....3-17

## ス

ステーション名.....2-9

## ソ

増設用ライセンス.....3-17

## ツ

追加ライセンス.....3-2

## ハ

パッケージリスト.....3-26

バージョンアップ用ライセンス.....4-2

## ヘ

編集モード.....1-16

## マ

マスタ配布.....3-15,3-16

マスタライセンス.....3-14,3-15

マージ.....3-17,4-3

## メ

メッセージ.....2-19

## ユ

ユーザ権限.....1-14

## ラ

ライセンス管理ステーション.....1-6

ライセンス再配布.....3-14-3-16

ライセンス適用ステーション.....1-6

ライセンスプロジェクト間の移動.....3-21

ライセンス返還ファイル.....3-11

## リ

リストア.....3-19





# 改訂情報

資料名称： ライセンス管理

資料番号： IM 33J01C20-01JA

## 2019年8月／8版／R6.07以降

1.1.2 UACS ステーション追加

2.4 UACS ステーション追加

## 2018年8月／7版／R6.06

1.1.1 「■ライセンス管理の対象製品」に PRM について追記

5. 「■アップグレードライセンスを追加する」を新規追加

## 2017年11月／6版／R6.05

全体 ライセンス管理の対象製品の表現変更

1.1 「■ライセンス管理とは」の記述変更

「■ライセンス管理の対象製品」の記述変更

1.2.4 「■メインウィンドウ」の図を変更

「●パッケージ情報エリア」の記述変更

3.9.5 記述変更

5. 記述変更

## 2017年4月／5版／R6.04

1.1 アップグレードライセンスについて追記

1.2 アップグレードライセンスについて追記

3. ソフトウェアライセンスについて追記

4. バージョンアップライセンスについて追記

5. アップグレードライセンス適用について追記

Appendix3 エラーメッセージ追加

## 2016年9月／4版／R6.03.10

2.4 UGS2 について記述変更

2.11 UGS2 について記述変更

## 2016年6月／3版／R6.03

2.4 UGS2 について追記

2.11 新規追加

2.12 2.11 から節番号変更。「冗長化ステーション」を「ネットワーク切替型冗長化 UGS」に変更

3.9.1 UGS2 について追記

Appendix3 誤記修正

## 2015年12月／2版／R6.02

全章 「PC」を「コンピュータ」に変更、「ライセンスキー」を「ライセンスキーファイル」に変更

2.5 ライセンス割り付けについて追記

2.7 ライセンス割り付けについて追記

3.7 ライセンスのリストアについて追記

## 2015年3月／初版／R6.01

新規発行

---

■ お問い合わせについて

問い合わせ : <http://www.yokogawa.co.jp/dcs> より、お問い合わせフォームをご利用ください。

■ 著作者 横河電機株式会社

■ 発行者 横河電機株式会社

〒 180-8750 東京都武蔵野市中町 2-9-32

---